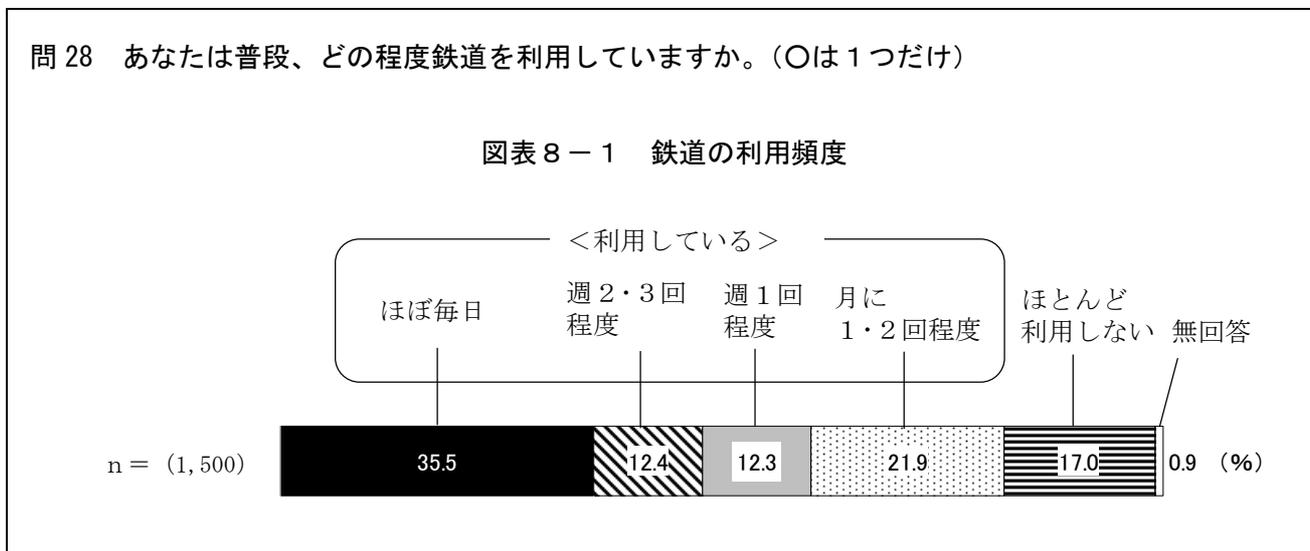


8 川崎市の都市交通について

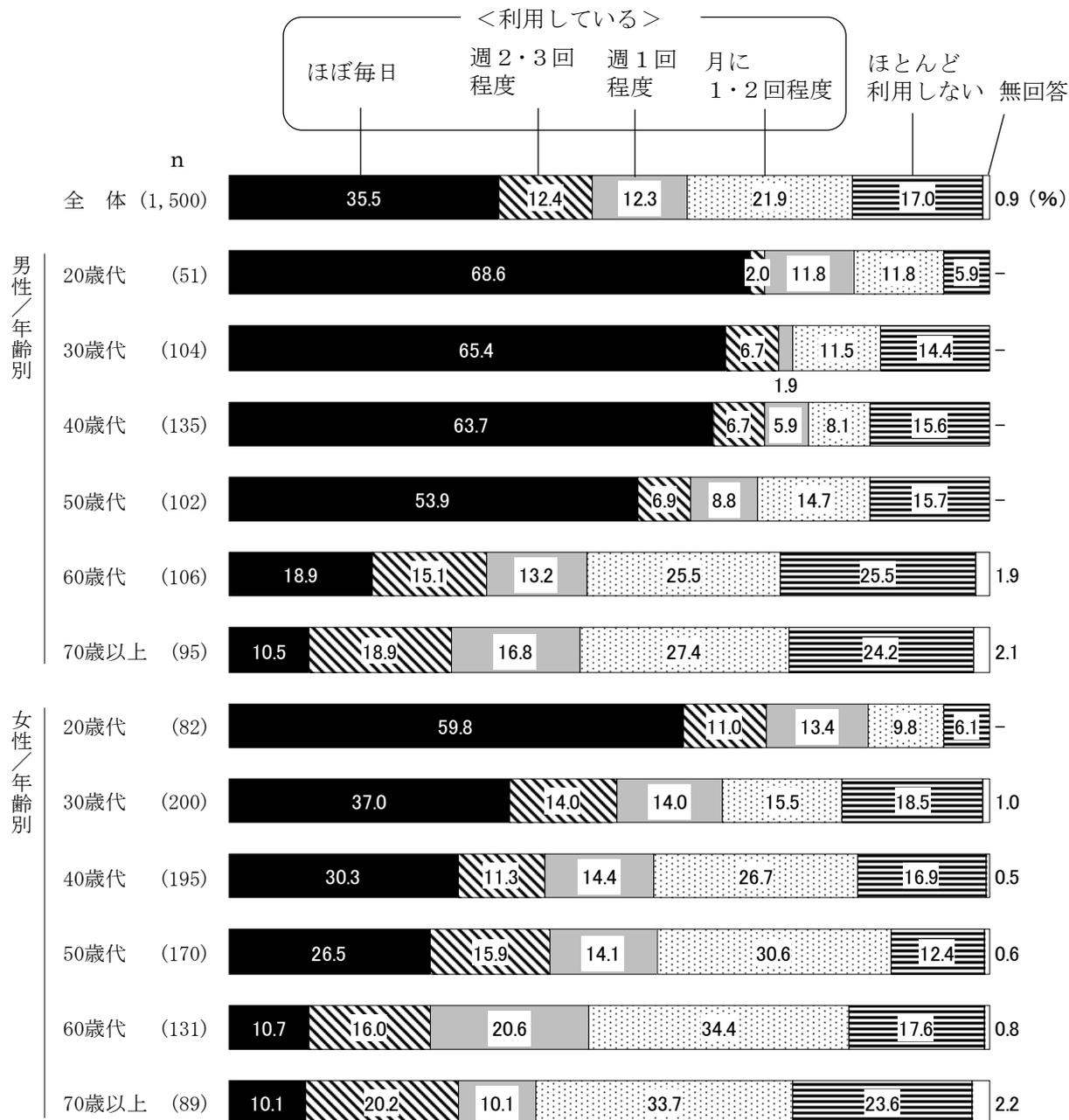
8-1 鉄道の利用頻度

◎「ほぼ毎日」が35.5%



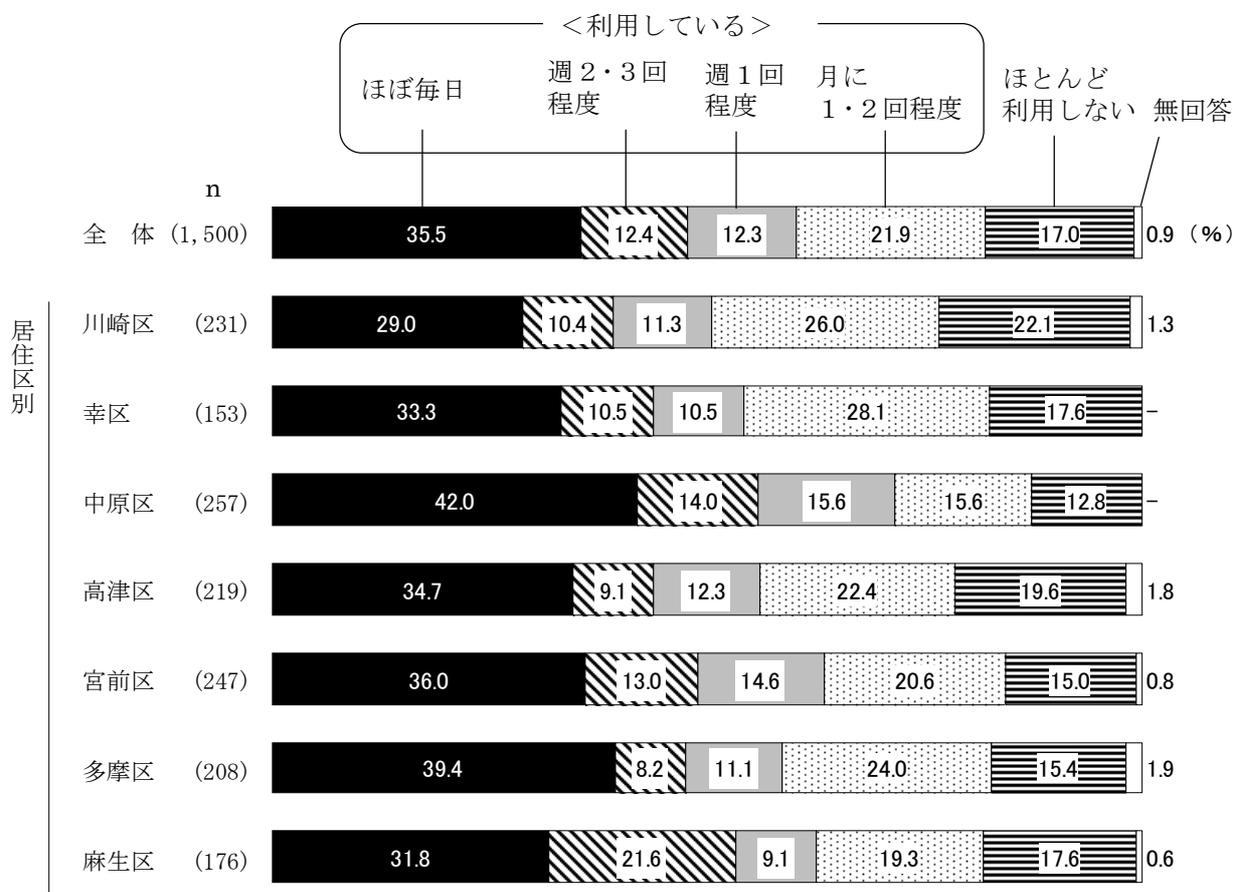
鉄道の利用頻度は、「ほぼ毎日」が35.5%と最も多く、次いで「月に1・2回程度」が21.9%、「週2・3回程度」が12.4%、「週1回程度」が12.3%となっている。なお、これらをあわせた<利用している>は82.1%となっている。一方、「ほとんど利用しない」は17.0%となっている。(図表8-1)

図表8-2 鉄道の利用頻度(性/年齢別)



性/年齢別では、<利用している>は、男女ともに20歳代(男性:94.2%、女性:94.0%)が9割台と最も多くなっている。「ほぼ毎日」は、男性の20歳代から40歳代が6割台、女性20歳代が約6割と多くなっている。一方、「ほとんど利用しない」は、男性では60歳代(25.5%)、70歳以上(24.2%)、女性では70歳以上(23.6%)が2割台と多くなっている。(図表8-2)

図表8-3 鉄道の利用頻度（居住区別）



居住区別では、<利用している>は、中原区（87.2%）が最も多く、次いで宮前区（84.2%）、多摩区（82.7%）の順となっている。「ほぼ毎日」は、中原区（42.0%）が4割台と最も多く、次いで多摩区（39.4%）、宮前区（36.0%）の順となっている。一方、「ほとんど利用しない」は、川崎区（22.1%）が2割台と最も多くなっている。（図表8-3）

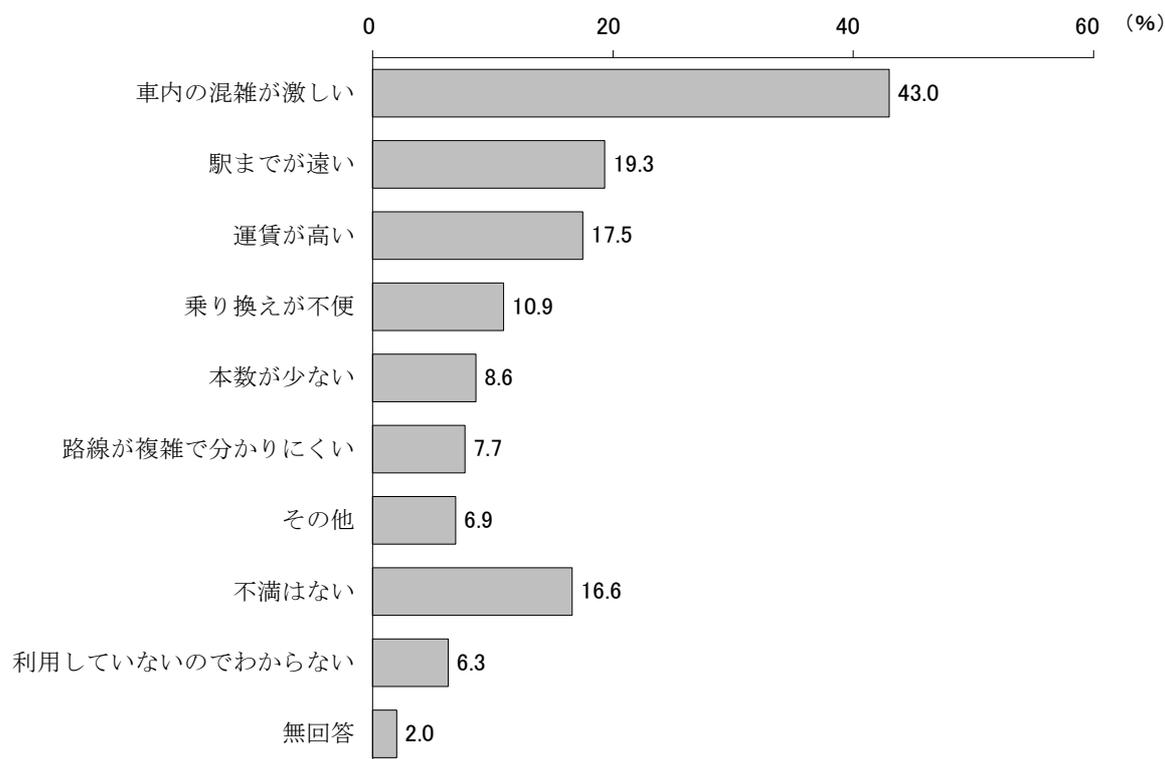
8-2 鉄道利用において不満と感じている点

◎「車内の混雑が激しい」が43.0%

問29 鉄道利用において、あなたが不満と感じている点は次のうちどれですか。(○は2つまで)

図表8-4 鉄道利用において不満と感じている点

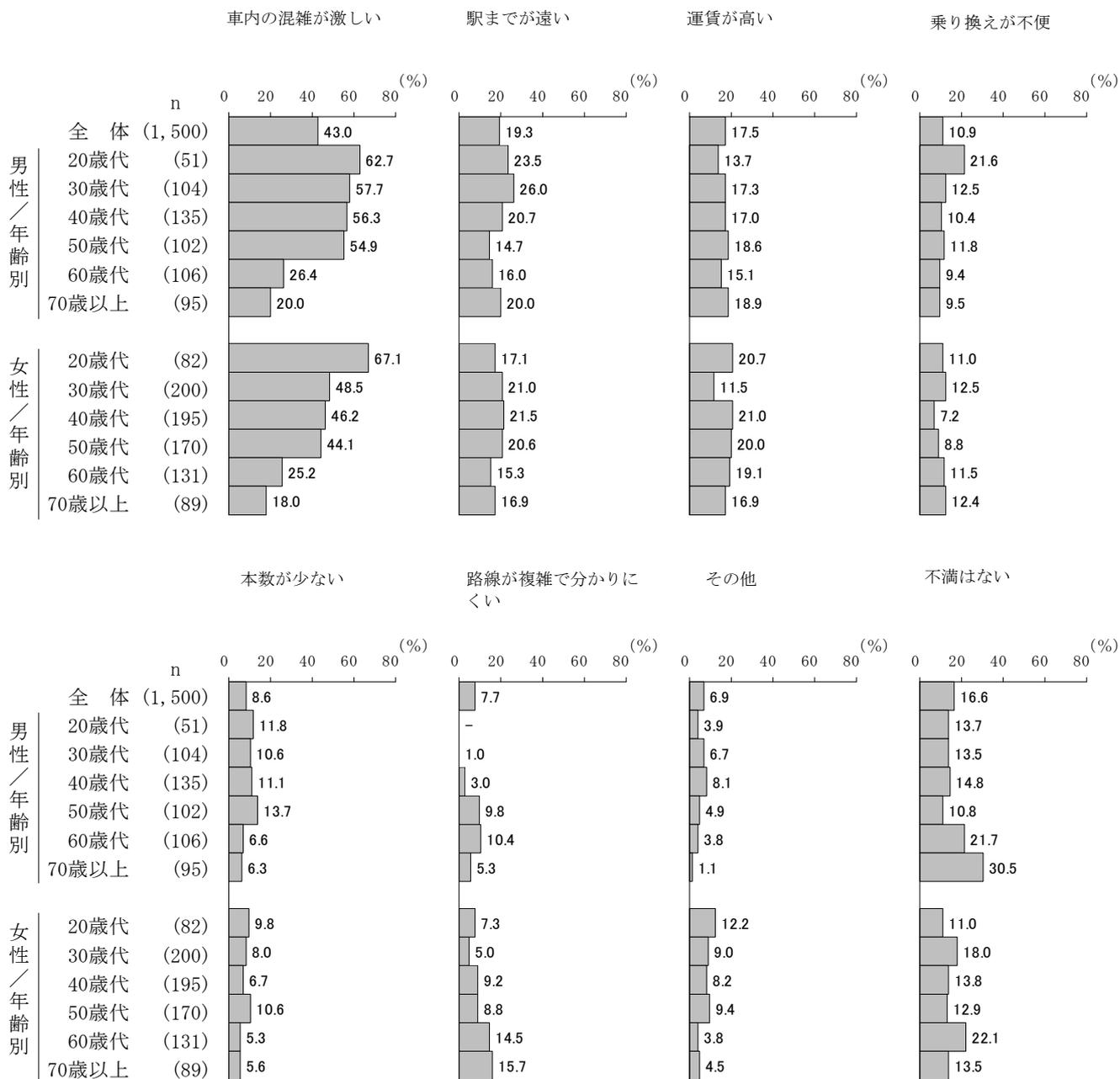
(複数回答) n = (1,500)



鉄道利用において不満と感じている点は、「車内の混雑が激しい」(43.0%)が4割台と最も多くなっている。次いで、「駅までが遠い」(19.3%)、「運賃が高い」(17.5%)、「乗り換えが不便」(10.9%)の順となっている。(図表8-4)

図表8-5 鉄道利用において不満と感じている点(性/年齢別)

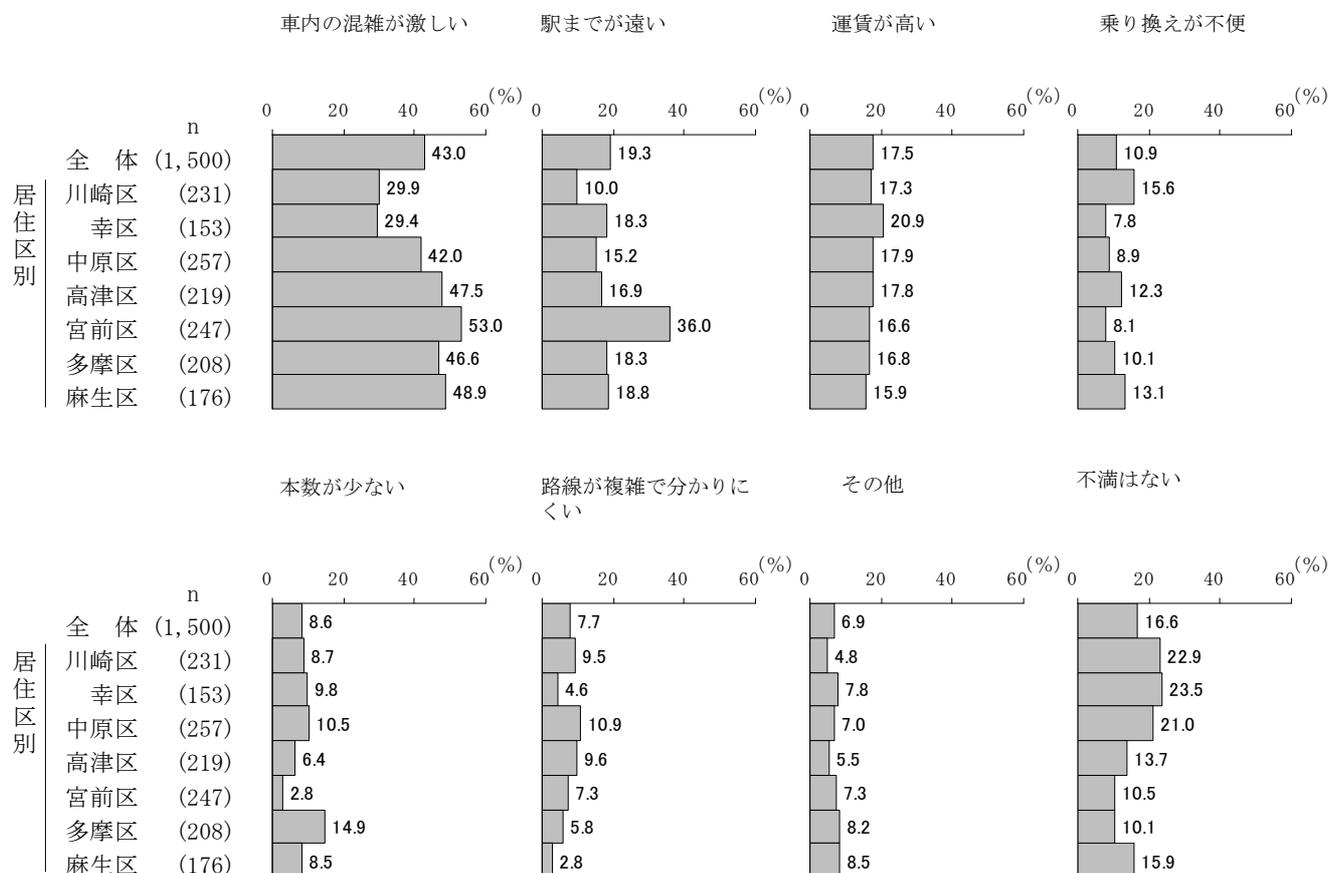
*「利用していないのでわからない」を除く8項目



性/年齢別では、「車内の混雑が激しい」は、男性では20歳代(62.7%)が6割台前半と最も多く、30歳代から50歳代も5割台と多くなっている。女性では20歳代(67.1%)が6割台後半と最も多くなっている。「駅までが遠い」は、男性30歳代(26.0%)が2割台半ばと最も多くなっている。「運賃が高い」は、女性30歳代(11.5%)が最も少なくなっている。「乗り換えが不便」は、男性20歳代(21.6%)が最も多くなっている。(図表8-5)

図表8-6 鉄道利用において不満と感じている点(居住区別)

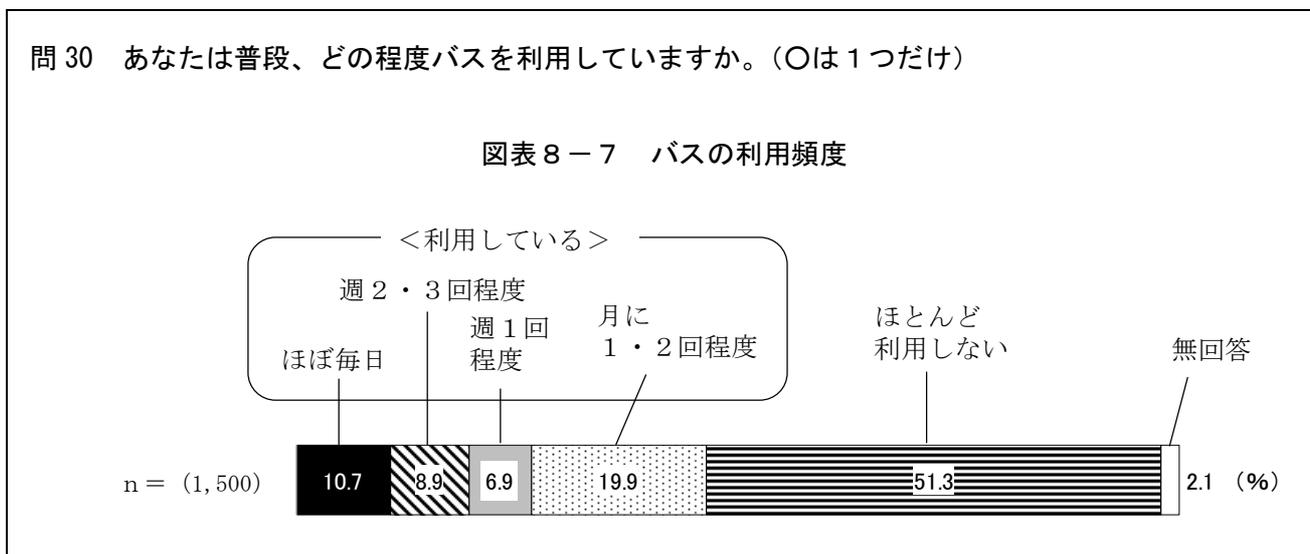
*「利用していないのでわからない」を除く8項目



居住区別では、「車内の混雑が激しい」は、宮前区(53.0%)が5割台と最も多く、幸区(29.4%)、川崎区(29.9%)が少なくなっている。「駅までが遠い」は、宮前区(36.0%)が3割台半ばと最も多く、他の居住区はすべて1割台となっている。「運賃が高い」は、幸区(20.9%)が最も多くなっている。「乗り換えが不便」は、川崎区(15.6%)が最も多くなっている。(図表8-6)

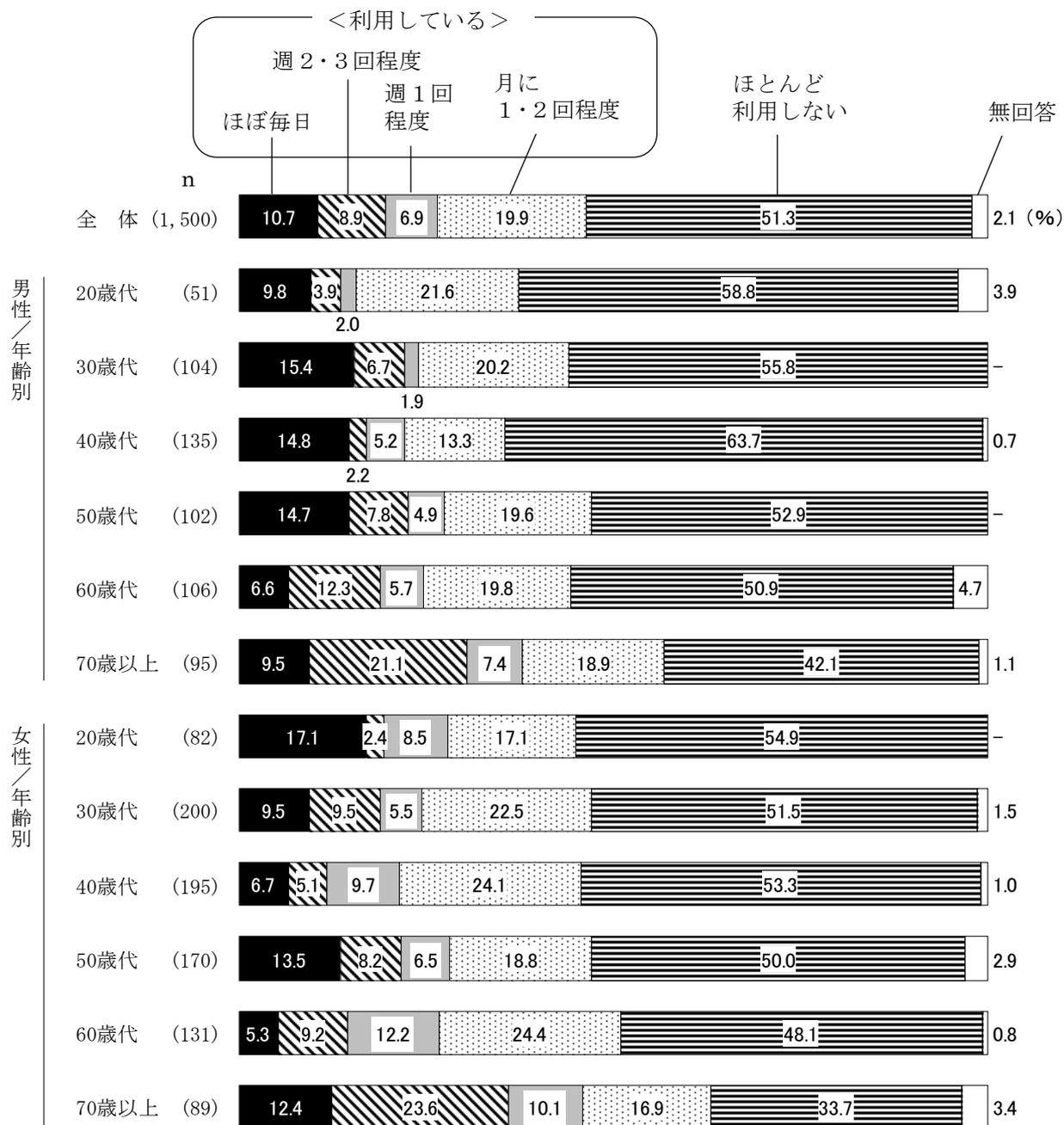
8-3 バスの利用頻度

◎「月に1・2回程度」が19.9%、「ほとんど利用しない」は51.3%



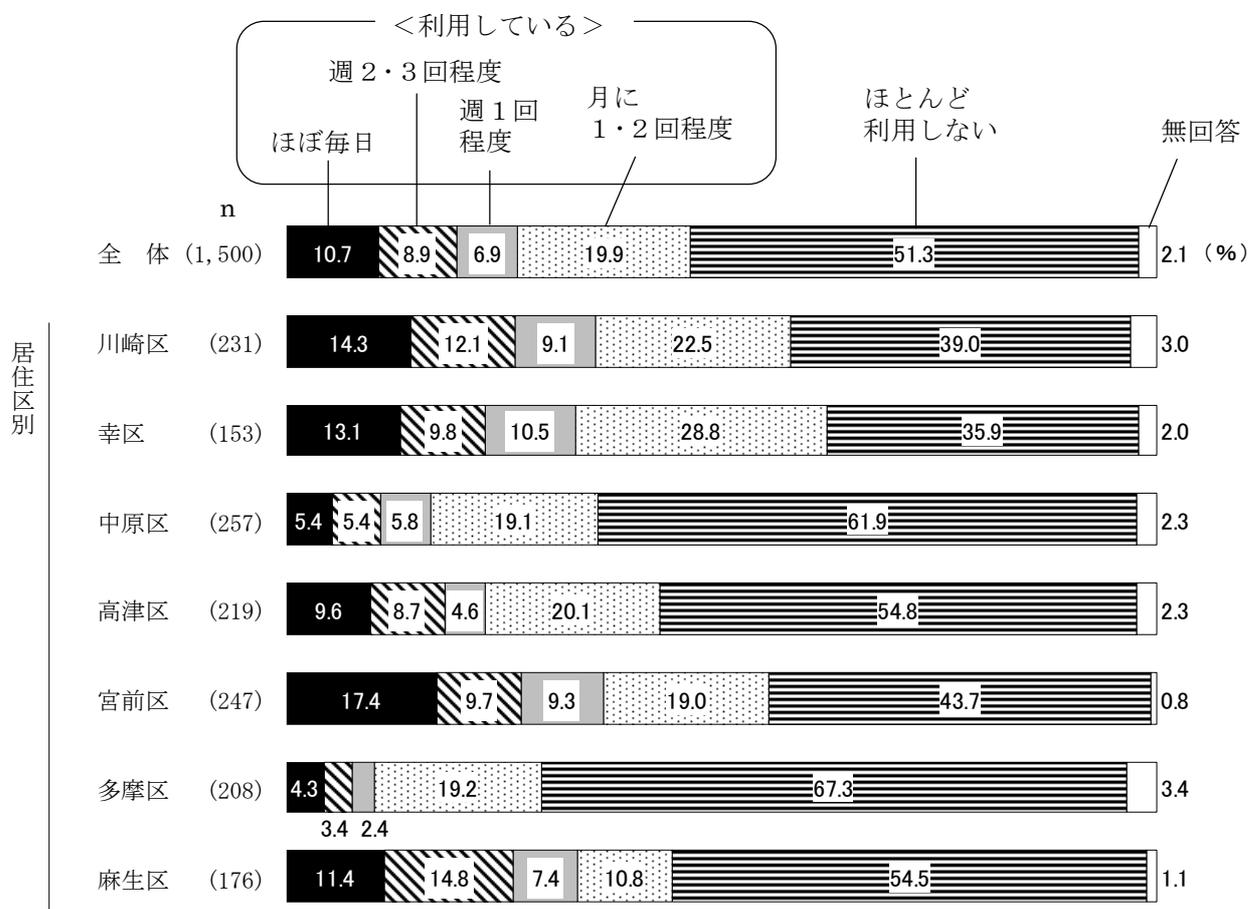
バスの利用頻度は、「月に1・2回程度」が19.9%、「ほぼ毎日」が10.7%、「週2・3回程度」が8.9%、「週1回程度」が6.9%となっており、これらをあわせた<利用している>は46.4%となっている。一方、「ほとんど利用しない」は51.3%となっている。(図表8-7)

図表8-8 バスの利用頻度(性/年齢別)



性/年齢別では、<利用している>は男女ともに70歳以上(男性:56.9%、女性:63.0%)が最も多くなっている。「ほぼ毎日」は、男性では30歳代から50歳代が1割台半ばと多く、女性では20歳代(17.1%)が最も多くなっている。一方、「ほとんど利用しない」は、男性40歳代(63.7%)が6割台と最も多くなっている。(図表8-8)

図表8-9 バスの利用頻度(居住区別)



居住区別では、<利用している>は、幸区(62.2%)が6割台と最も多く、川崎区(58.0%)、宮前区(55.4%)も5割台と多くなっている。「ほぼ毎日」は、宮前区(17.4%)が1割台後半と最も多くなっている。一方、「ほとんど利用しない」は、多摩区(67.3%)、中原区(61.9%)が6割台と多くなっている。(図表8-9)

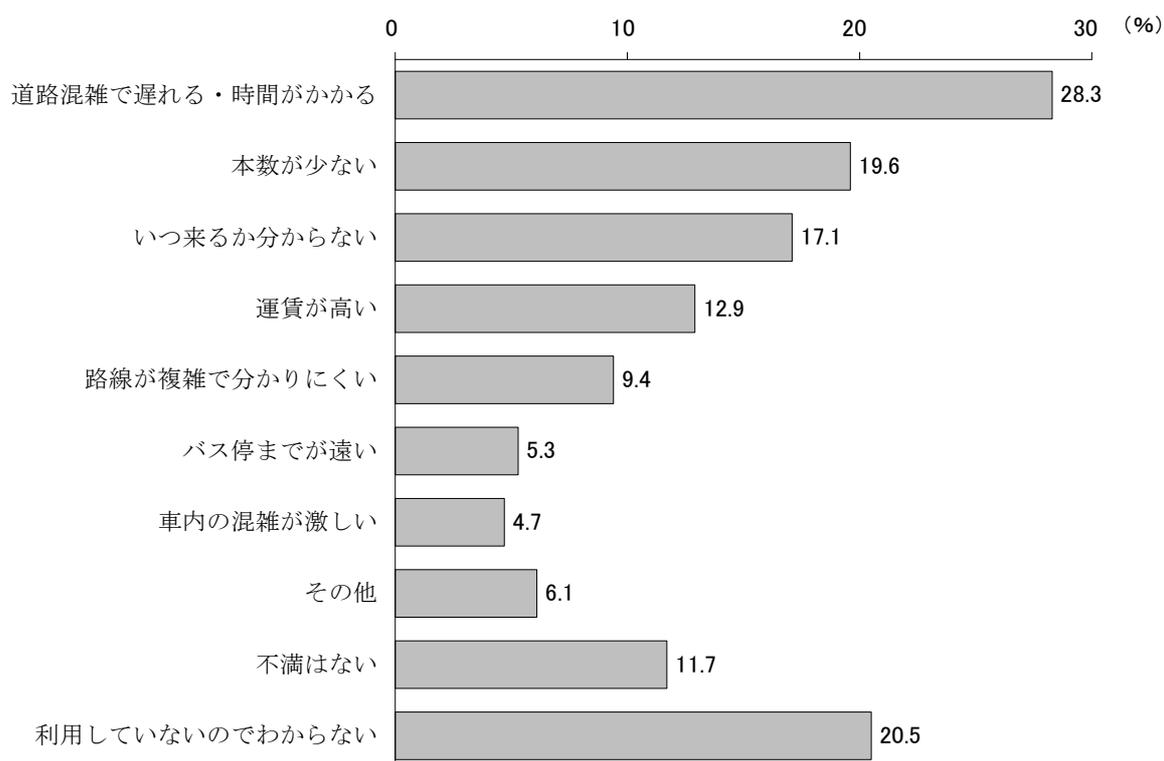
8-4 バス利用において不満と感じている点

◎「道路混雑で遅れる・時間がかかる」が28.3%

問31 バス利用において、あなたが不満と感じている点は次のうちどれですか。(○は2つまで)

図表8-10 バス利用において不満と感じている点

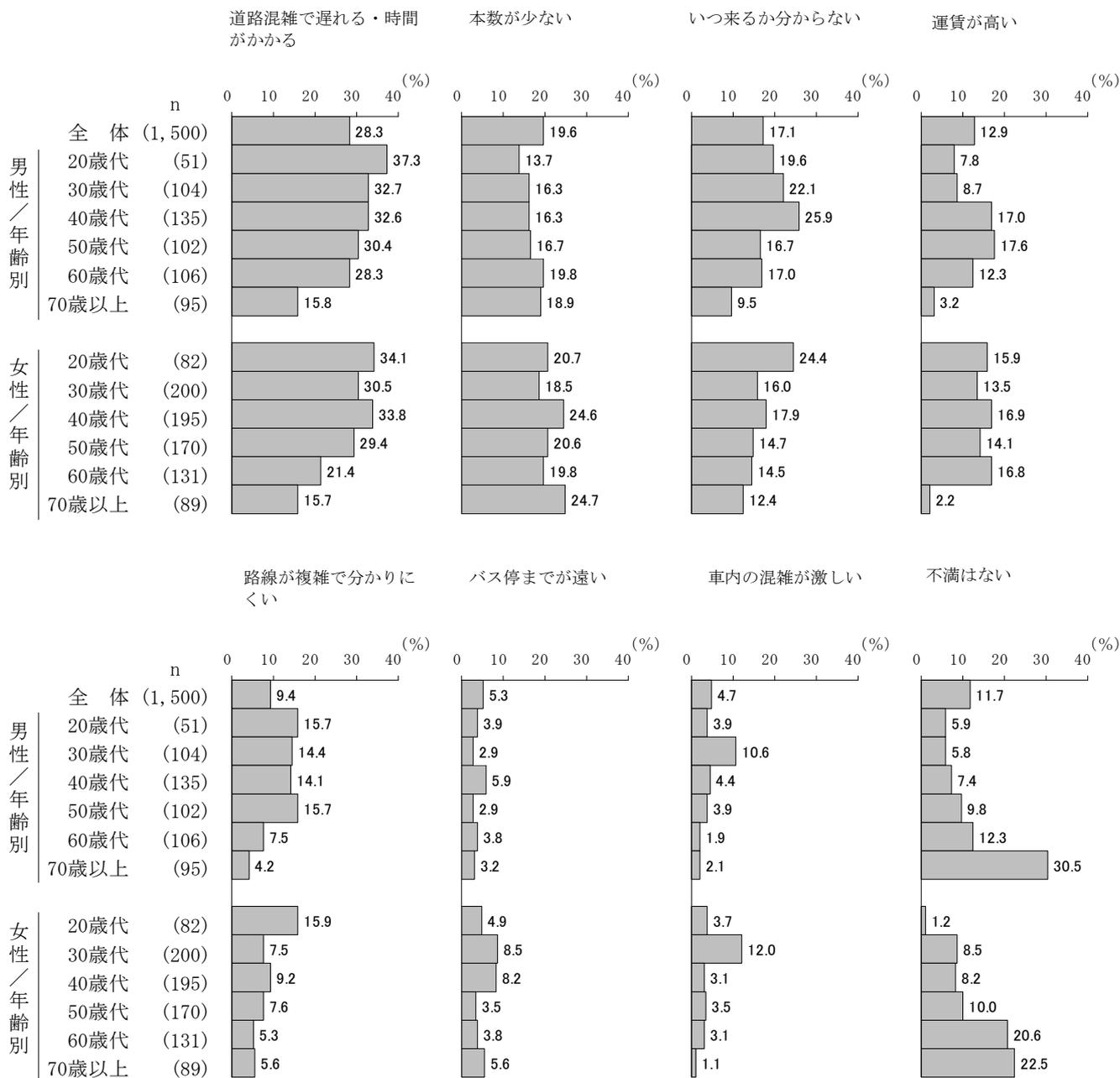
(複数回答) n = (1,500)



バス利用において不満と感じている点は、「道路混雑で遅れる・時間がかかる」(28.3%)が最も多くなっている。次いで、「本数が少ない」(19.6%)、「いつ来るか分からない」(17.1%)、「運賃が高い」(12.9%)の順となっている。(図表8-10)

図表8-11 バス利用において不満と感じている点(性/年齢別)

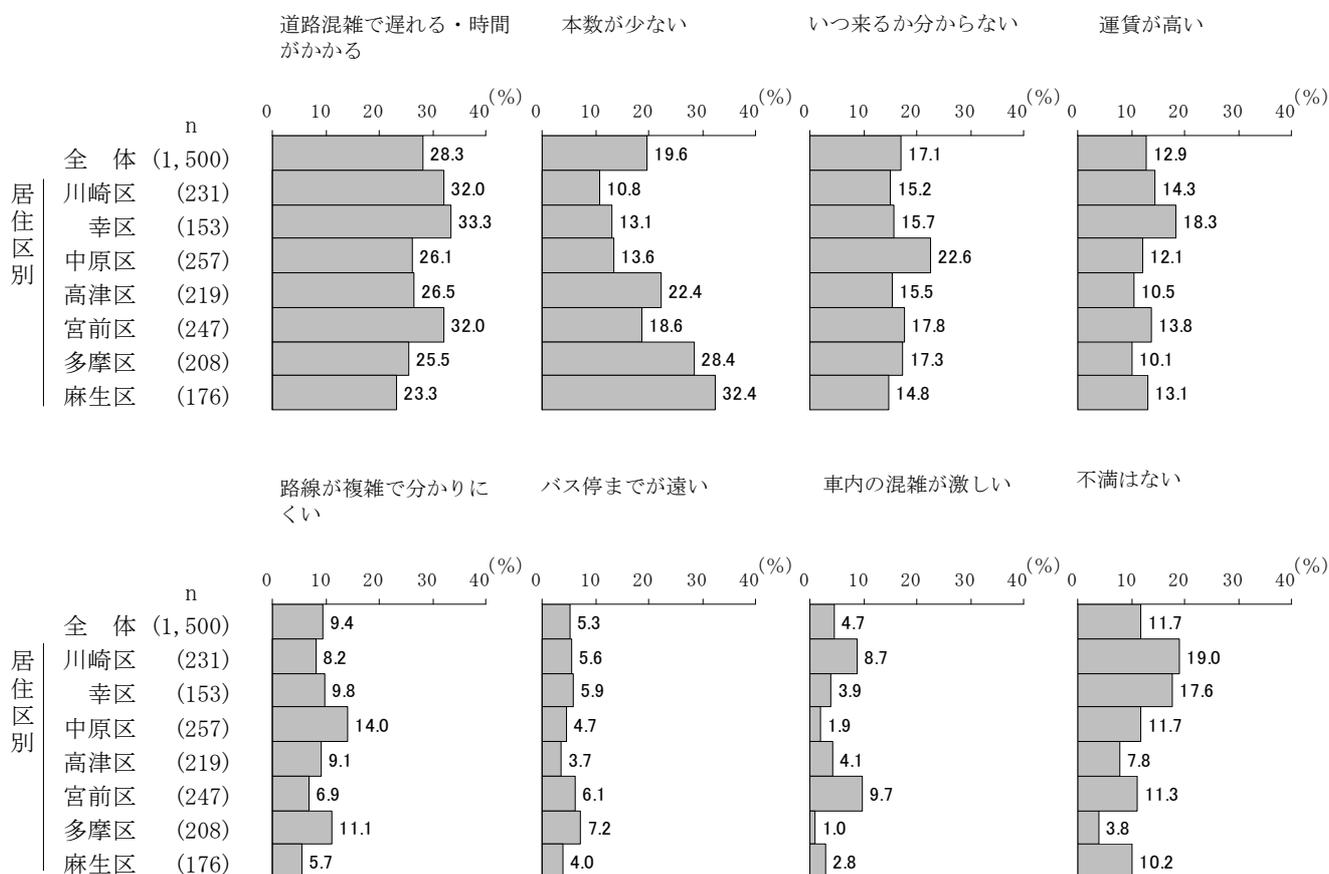
*「その他」「利用していないのでわからない」を除く8項目



性/年齢別では、「道路混雑で遅れる・時間がかかる」は、男女ともに20歳代(男性:37.3%、女性:34.1%)が最も多く、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなっている。「本数が少ない」は、女性の40歳代(24.6%)と70歳以上(24.7%)が2割台半ばと多くなっている。「いつ来るか分からない」は、男性では40歳代(25.9%)、女性では20歳代(24.4%)が最も多くなっている。(図表8-11)

図表8-12 バス利用において不満と感じている点(居住区別)

*「その他」「利用していないのでわからない」を除く8項目



居住区別では、「道路混雑で遅れる・時間がかかる」は、幸区(33.3%)、川崎区(32.0%)、宮前区(32.0%)が多くなっている。「本数が少ない」は、麻生区(32.4%)、多摩区(28.4%)が多く、川崎区(10.8%)が最も少なくなっている。「いつ来るか分からない」は、中原区(22.6%)が最も多くなっている。「運賃が高い」は、幸区(18.3%)が最も多くなっている。(図表8-12)

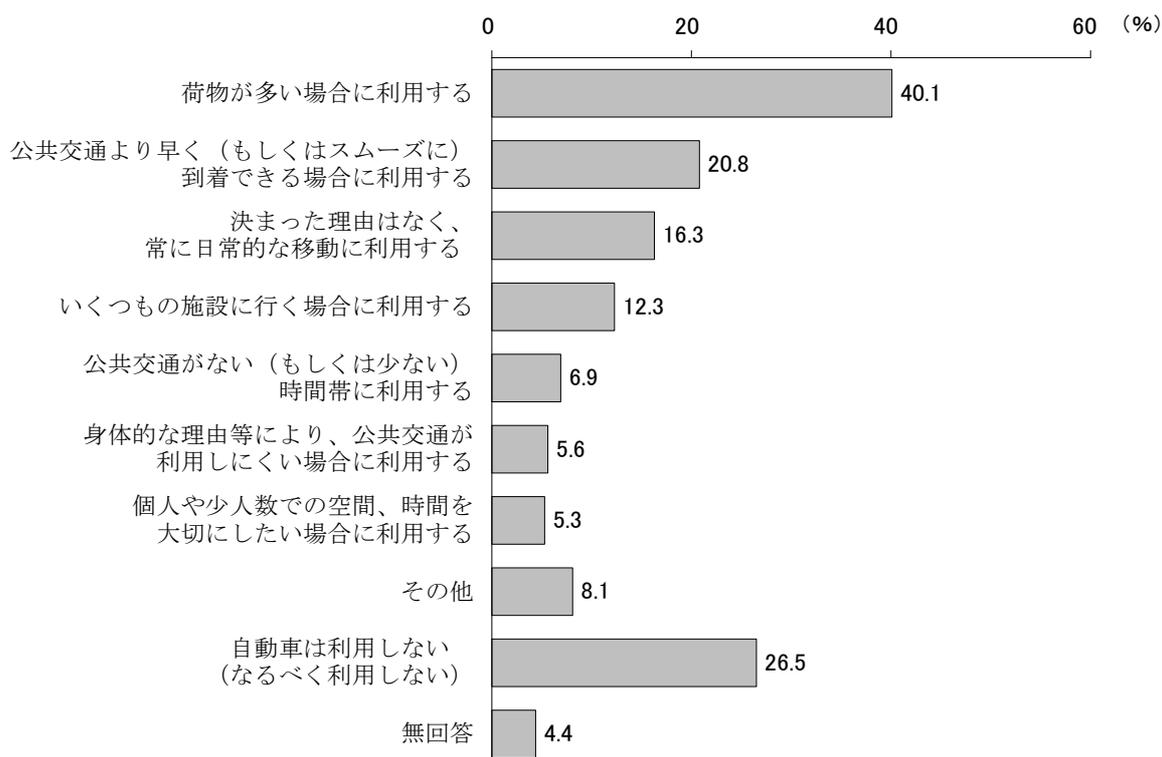
8-5 どのような場合に自動車を利用するか

◎「荷物が多い場合に利用する」が40.1%

問 32 あなたはどのような場合に（理由で）、自動車を利用していますか。（○は2つまで）

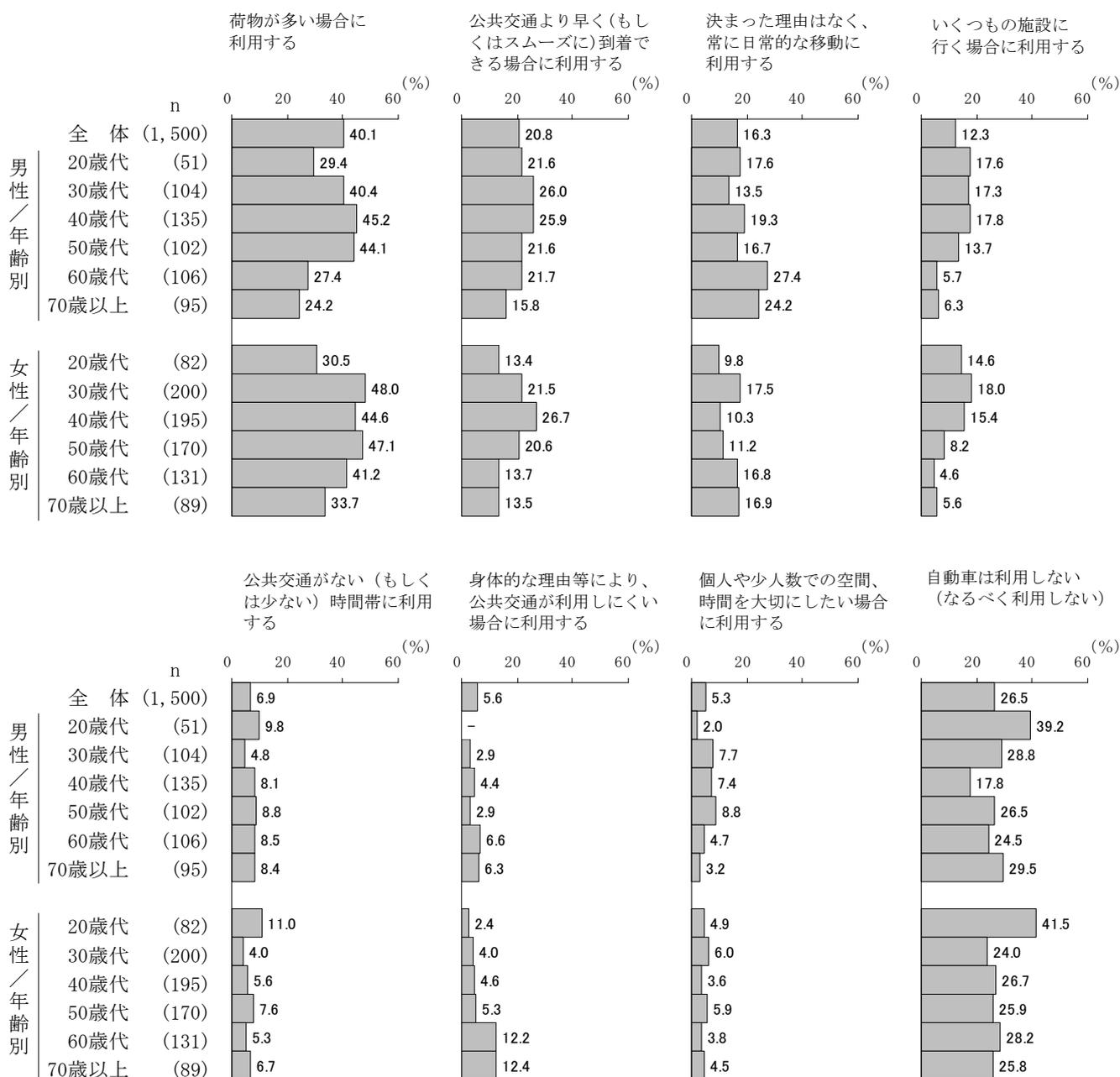
図表 8-13 どのような場合に自動車を利用するか

(複数回答) n = (1,500)



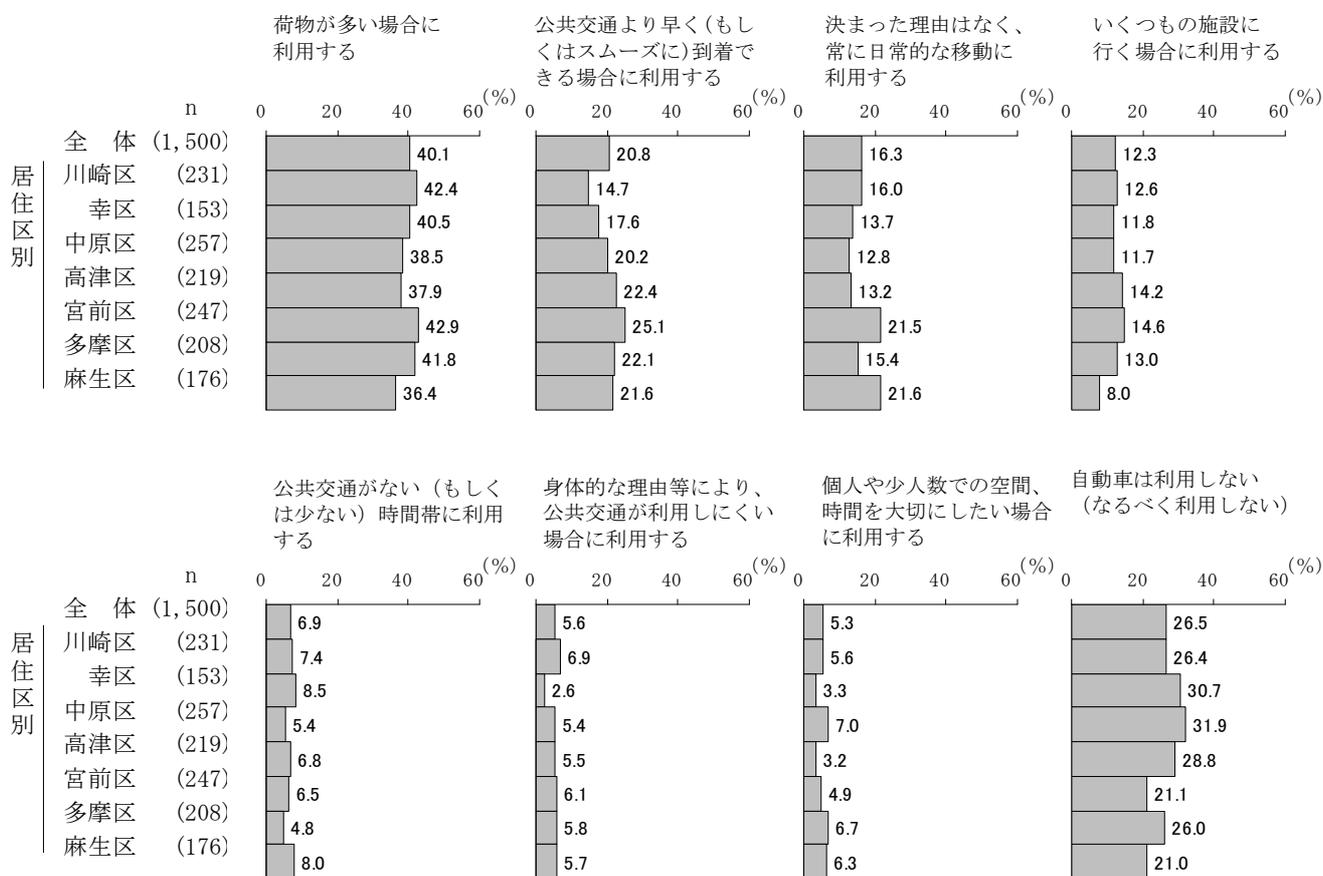
どのような場合に自動車を利用するかについては、「荷物が多い場合に利用する」(40.1%)が約4割と最も多くなっている。次いで、「公共交通より早く（もしくはスムーズに）到着できる場合に利用する」(20.8%)、「決まった理由はなく、常に日常的な移動に利用する」(16.3%)、「いくつもの施設に行く場合に利用する」(12.3%)の順となっている。一方、「自動車は利用しない（なるべく利用しない）」(26.5%)は2割台半ばとなっている。(図表8-13)

図表8-14 どのような場合に自動車を利用するか(性/年齢別) *「その他」を除く8項目



性/年齢別では、「荷物が多い場合に利用する」は、男性では40歳代(45.2%)と50歳代(44.1%)が4割台半ばと多くなっており、女性では30歳代から50歳代が4割台半ばから4割台後半と多くなっている。「公共交通より早く(もしくはスムーズに)到着できる場合に利用する」は、男性では30歳代(26.0%)と40歳代(25.9%)、女性では40歳代(26.7%)が2割台半ばと多くなっている。「決まった理由はなく、常に日常的な移動に利用する」は、男性の60歳代(27.4%)と70歳以上(24.2%)が多くなっている。一方、「自動車は利用しない(なるべく利用しない)」は、男女ともに20歳代(男性:39.2%、女性:41.5%)が約4割と多くなっている。(図表8-14)

図表8-15 どのような場合に自動車を利用するか(居住区別) *「その他」を除く8項目



居住区別では、「荷物が多い場合に利用する」は、大きな傾向の違いはみられない。「公共交通より早く(もしくはスムーズに)到着できる場合に利用する」は、宮前区(25.1%)が最も多く、川崎区(14.7%)が最も少なくなっている。「決まった理由はなく、常に日常的な移動に利用する」は、麻生区(21.6%)、宮前区(21.5%)が2割台と多くなっている。一方、「自動車は利用しない(なるべく利用しない)」は、中原区(31.9%)、幸区(30.7%)が3割台と多く、麻生区(21.0%)、宮前区(21.1%)が2割台前半と少なくなっている。(図表8-15)

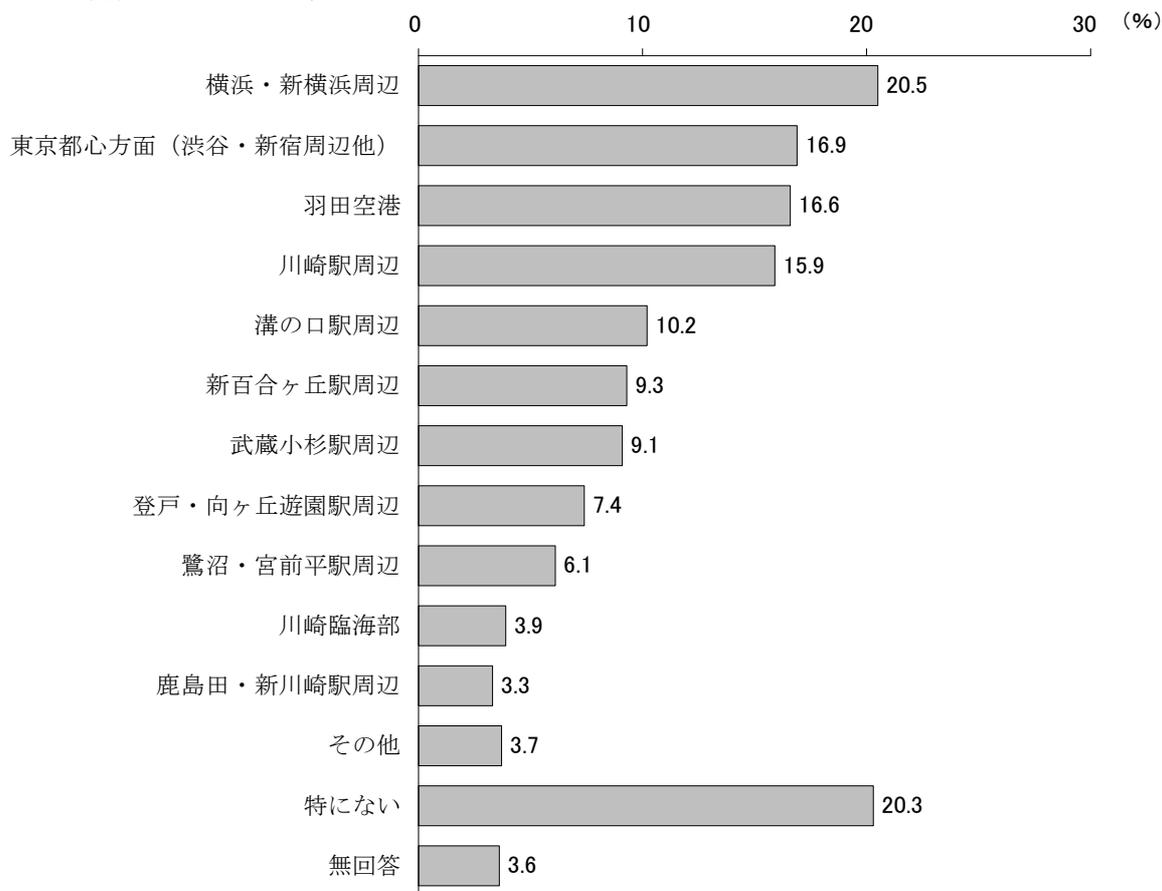
8-6 今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所

◎「横浜・新横浜周辺」が20.5%

問33 自宅からの交通利便性を考えたとき、今よりもアクセスが向上する（行きやすくなる）と良いと思う場所はどこですか。（○は2つまで）※鉄道・バス・自動車等、あなたが利用する交通手段でお考え下さい。

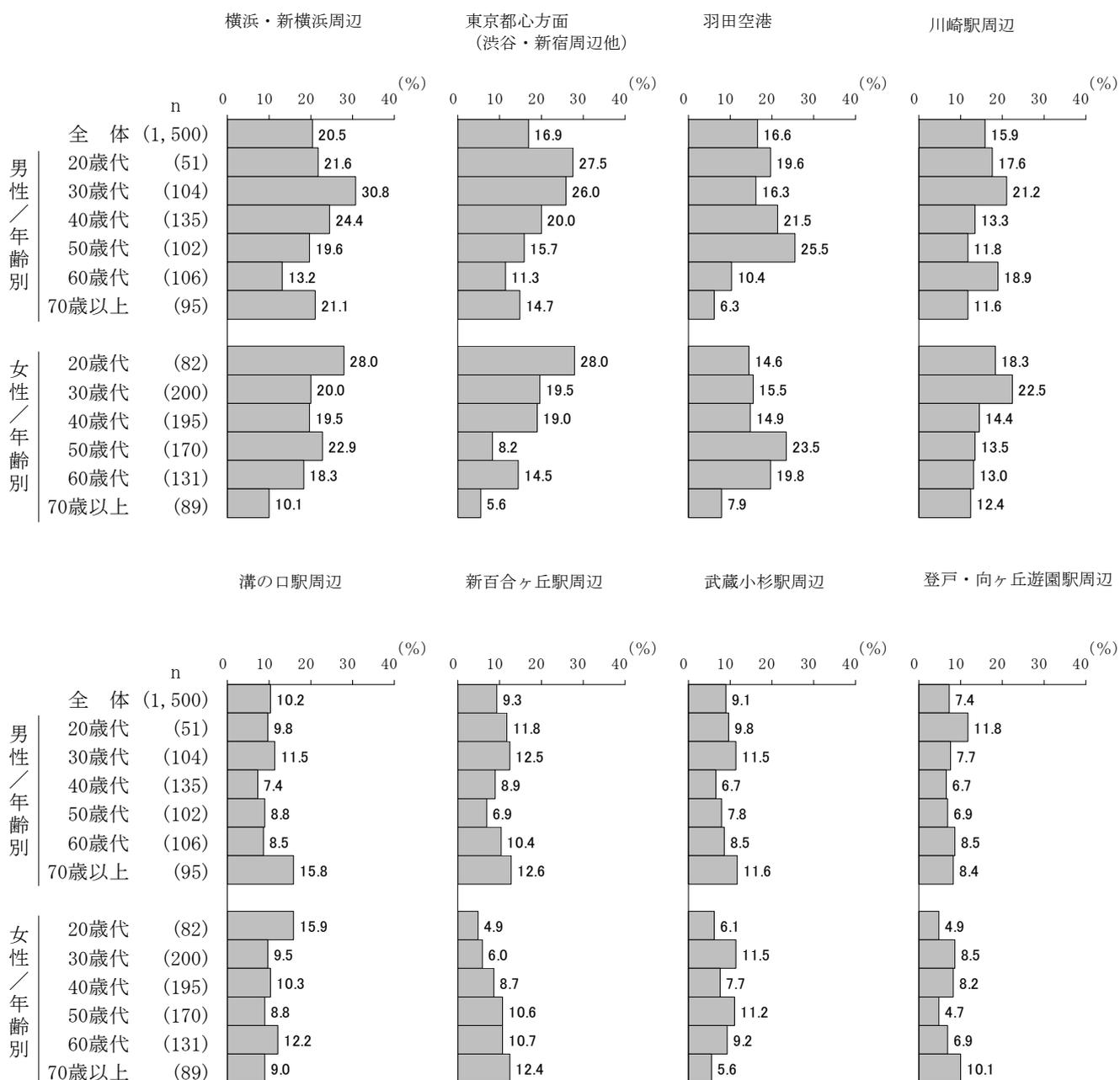
図表8-16 今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所

(複数回答) n = (1,500)



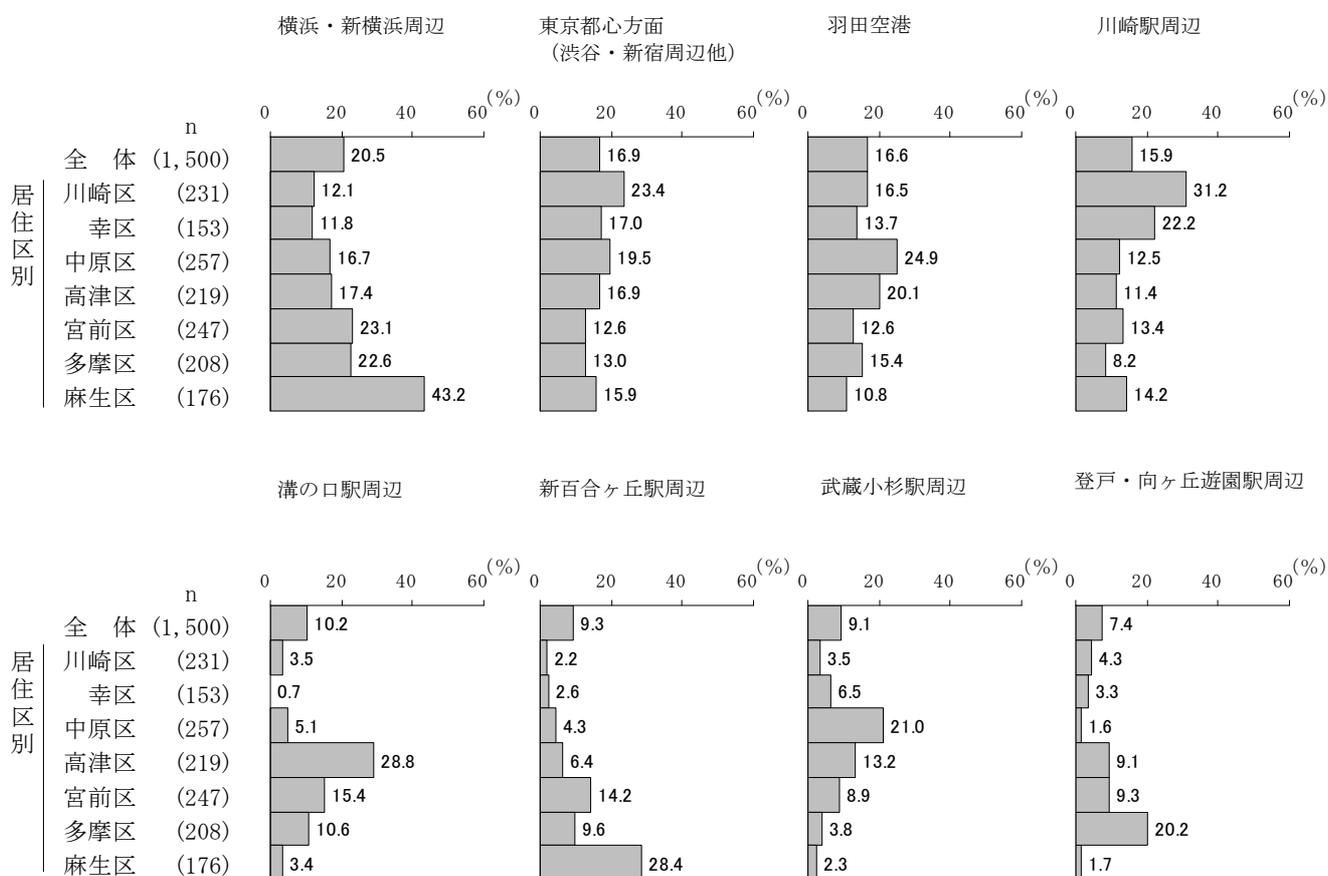
今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所は、「横浜・新横浜周辺」(20.5%)が最も多くなっている。次いで、「東京都心方面(渋谷・新宿周辺他)」(16.9%)、「羽田空港」(16.6%)、「川崎駅周辺」(15.9%)の順となっている。(図表8-16)

図表8-17 今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「横浜・新横浜周辺」は、男性では30歳代(30.8%)、女性では20歳代(28.0%)が最も多くなっている。「東京都心方面(渋谷・新宿周辺他)」は、男女ともに20歳代(男性:27.5%、女性:28.0%)が最も多く、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなっている。「羽田空港」は、男女ともに50歳代(男性:25.5%、女性:23.5%)が最も多くなっている。「川崎駅周辺」は、男女ともに30歳代(男性:21.2%、女性:22.5%)が最も多くなっている。(図表8-17)

図表8-18 今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所（居住区別、上位8項目）



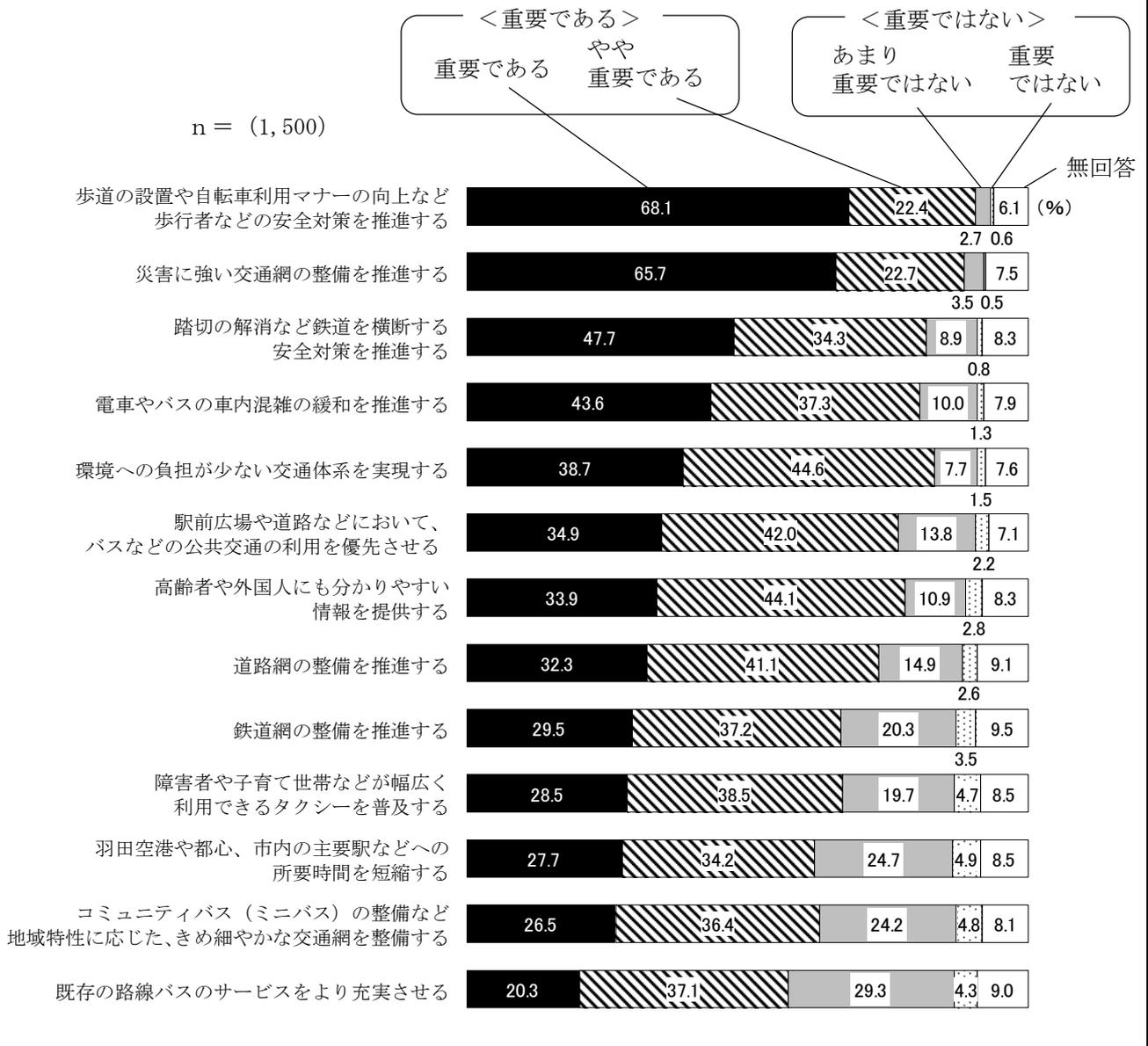
居住区別では、「横浜・新横浜周辺」は、麻生区（43.2%）が4割台と最も多くなっている。「東京都心方面（渋谷・新宿周辺他）」は、川崎区（23.4%）が最も多くなっている。「羽田空港」は、中原区（24.9%）が最も多く、麻生区（10.8%）が最も少なくなっている。（図表8-18）

8-7 市の交通政策について

◎「重要である」は、「歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などの安全対策を推進する」が90.5%

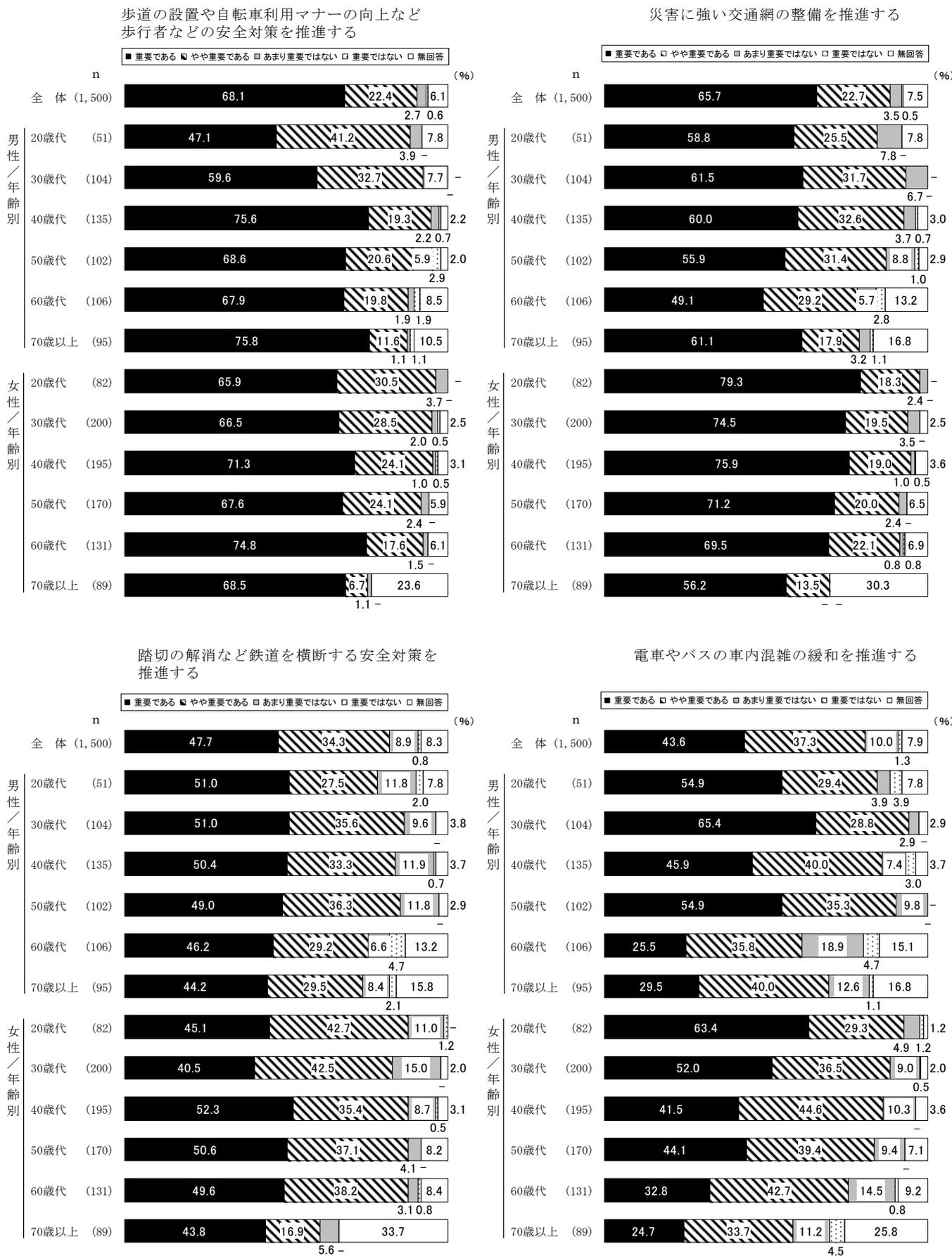
問34 あなたは、次の交通政策について、それぞれどの程度重要だと考えますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表8-19 市の交通政策について



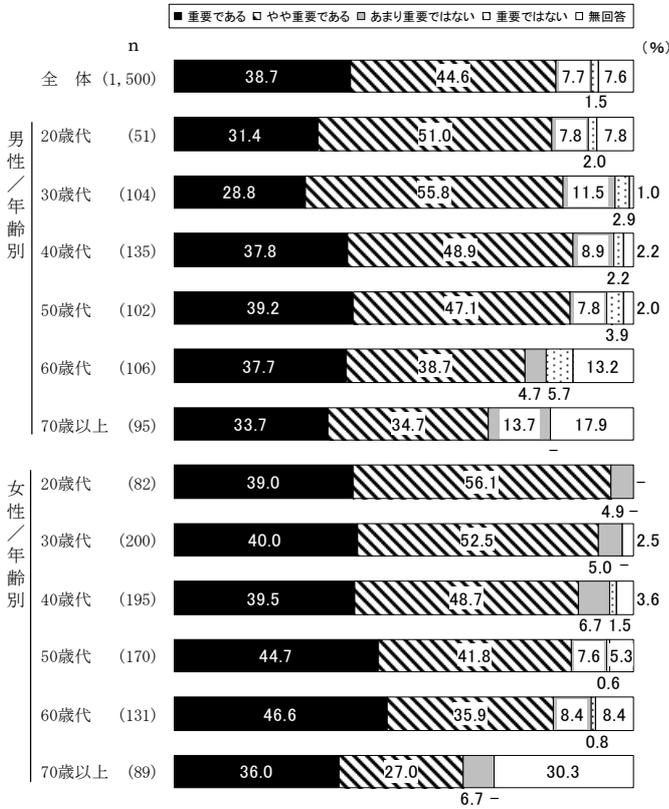
市の交通政策については、「重要である」と「やや重要である」をあわせて「重要である」は、「歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などの安全対策を推進する」(90.5%)が最も多く、次いで「災害に強い交通網の整備を推進する」(88.4%)の順となっている。(図表8-19)

図表8-20 市の交通政策について（性／年齢別）

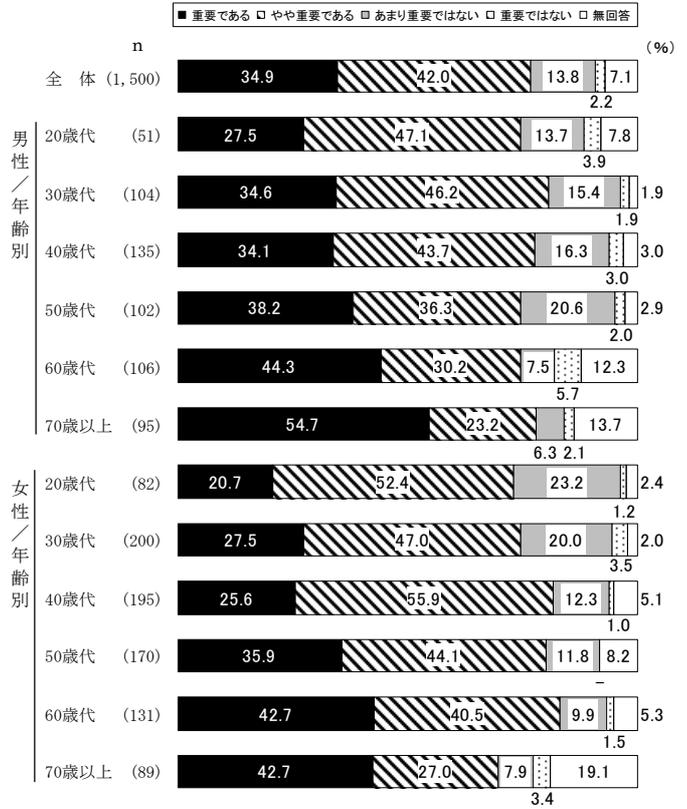


(第2回アンケート)

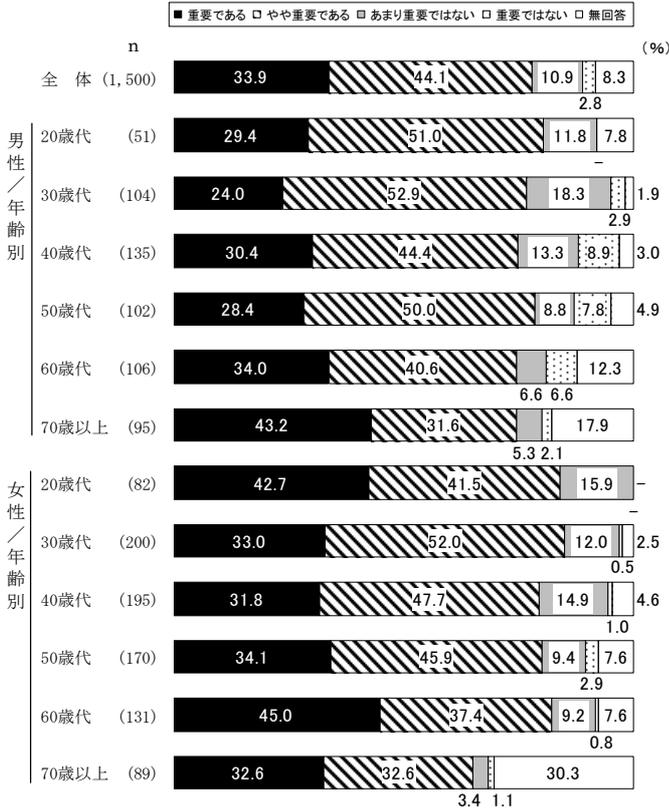
環境への負担が少ない交通体系を実現する



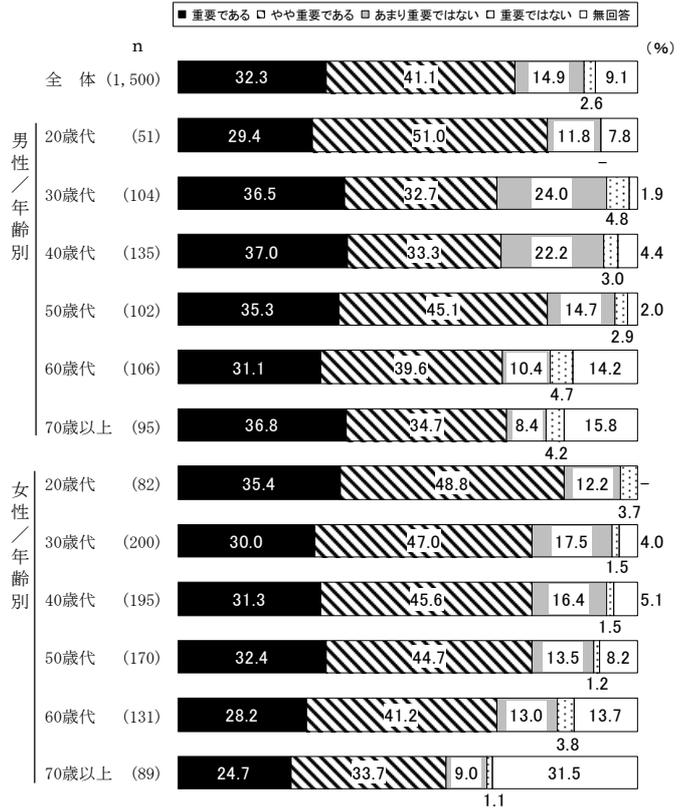
駅前広場や道路などにおいて、バスなどの公共交通の利用を優先させる



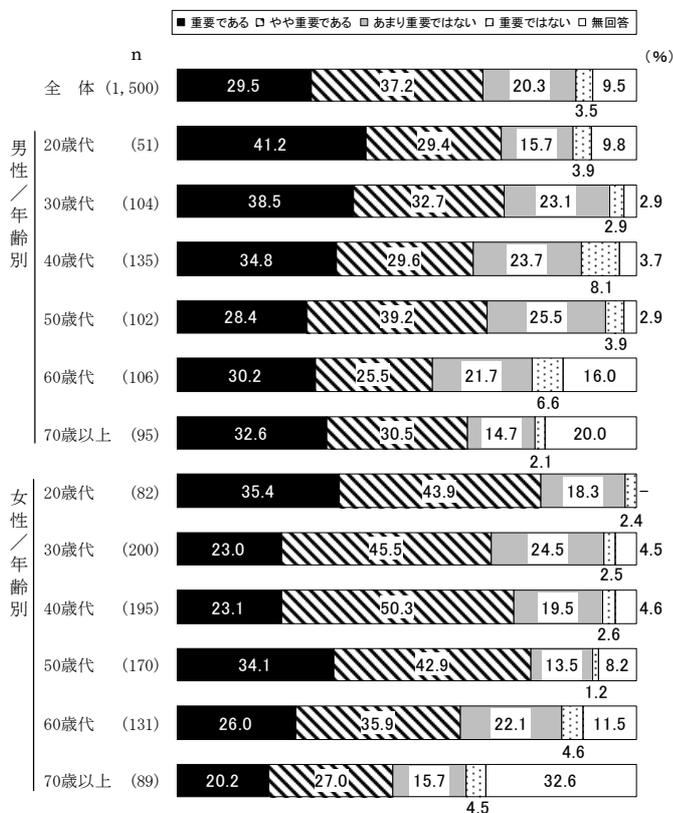
高齢者や外国人にも分かりやすい情報を提供する



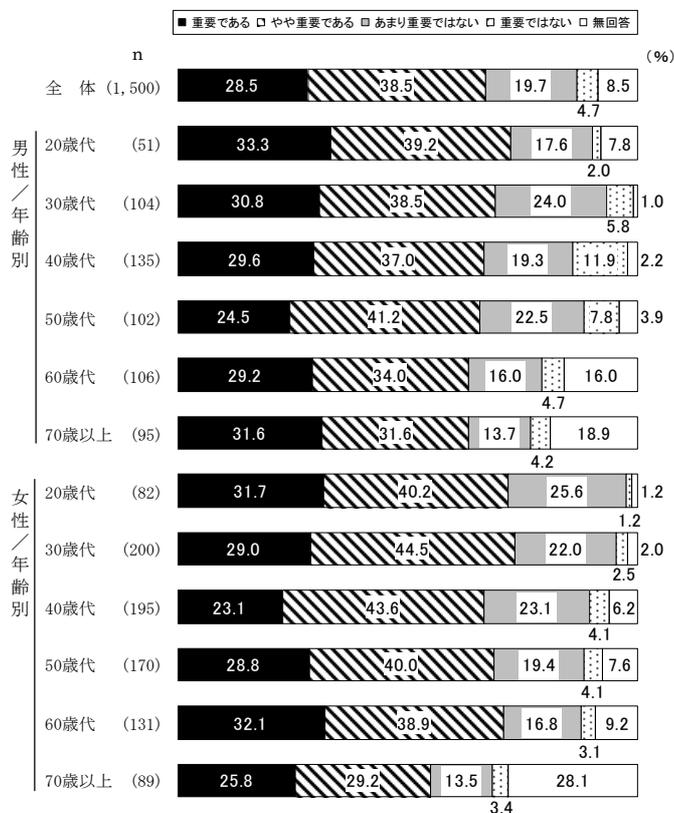
道路網の整備を推進する



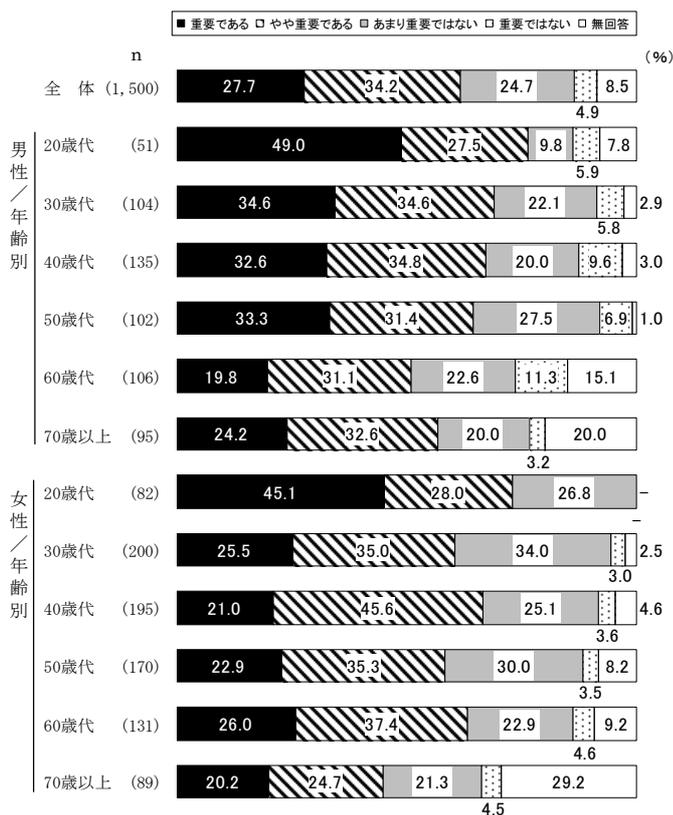
鉄道網の整備を推進する



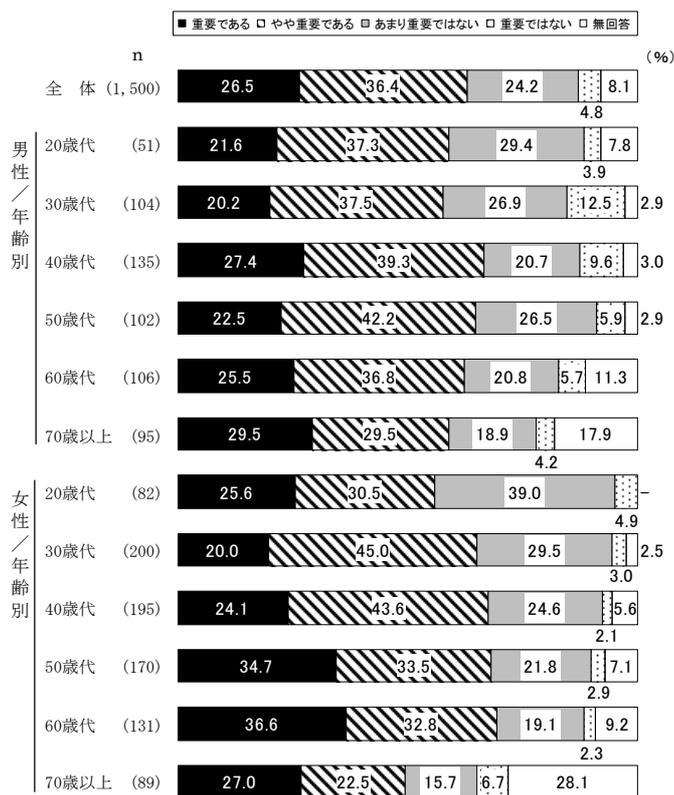
障害者や子育て世帯などが幅広く利用できるタクシーを普及する



羽田空港や都心、市内の主要駅などへの所要時間を短縮する

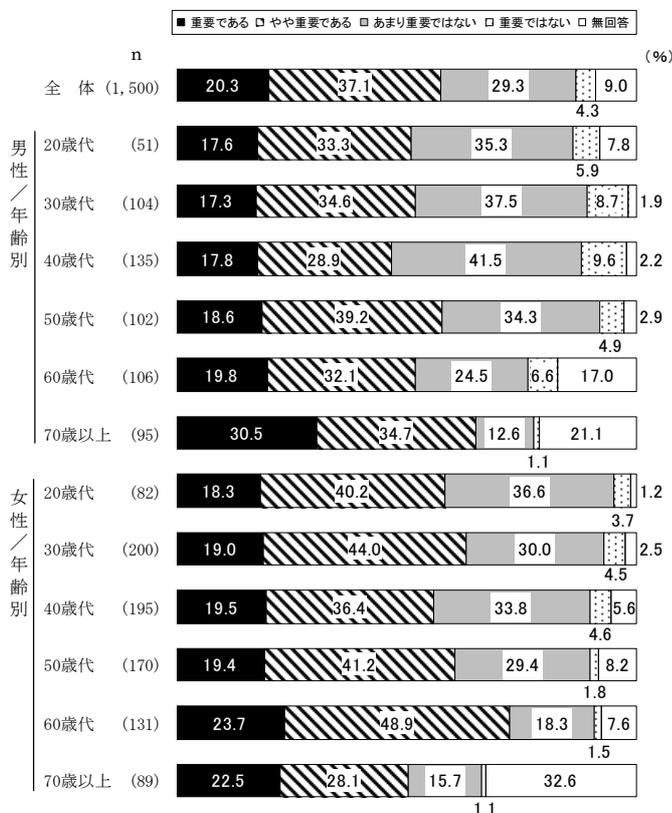


コミュニティバス（ミニバス）の整備など地域特性に応じた、きめ細やかな交通網を整備する



(第2回アンケート)

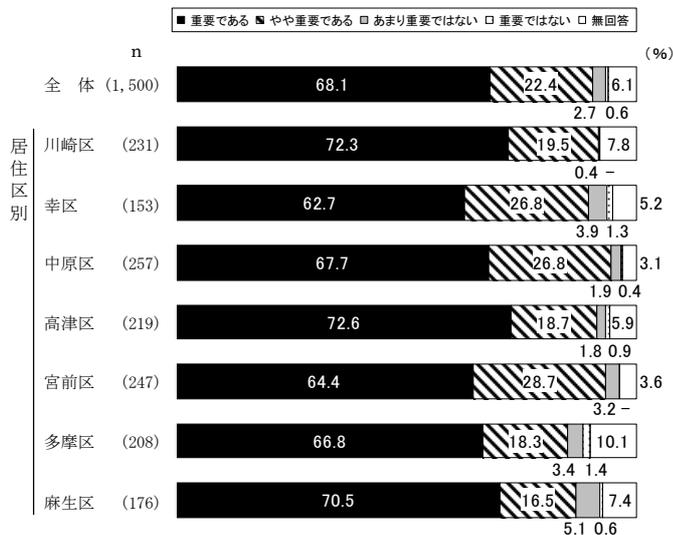
既存の路線バスのサービスをより充実させる



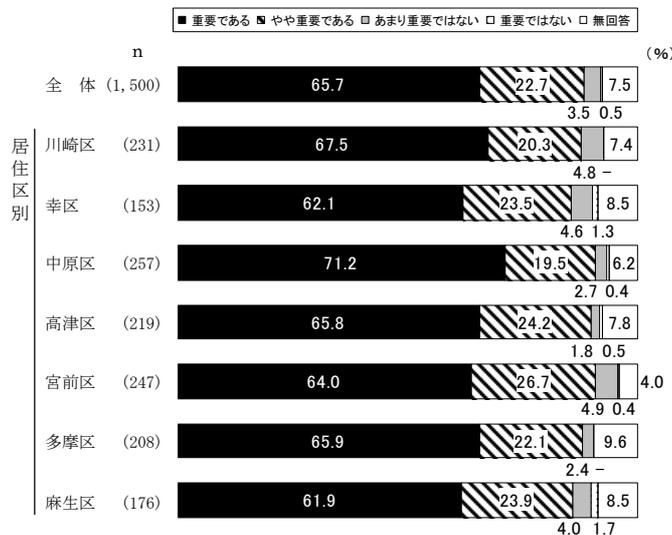
性/年齢別では、＜重要である＞は、「歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などの安全対策を推進する」は男性では40歳代(94.9%)、女性では20歳代から40歳代が9割台半ばと多くなっている。「災害に強い交通網の整備を推進する」は、男性では30歳代(93.2%)、40歳代(92.6%)、女性では20歳代から40歳代が多くなっている。「踏切の解消など鉄道を横断する安全対策を推進する」は、男性では30歳代(86.6%)が最も多く、女性では20歳代と40歳代から60歳代が8割台後半と多くなっている。「電車やバスの車内混雑の緩和を推進する」は、男性では30歳代(94.2%)、女性では20歳代(92.7%)が最も多くなっている。(図表8-20)

図表8-21 市の交通政策について（居住区別）

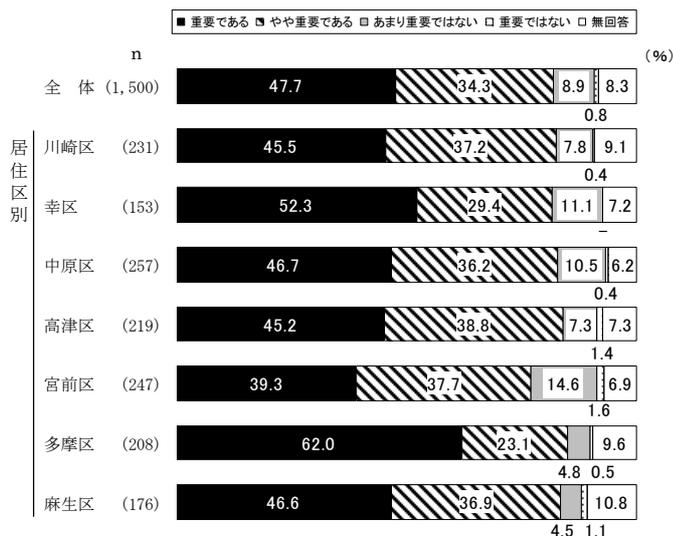
歩道の設置や自転車利用マナーの向上など
歩行者などの安全対策を推進する



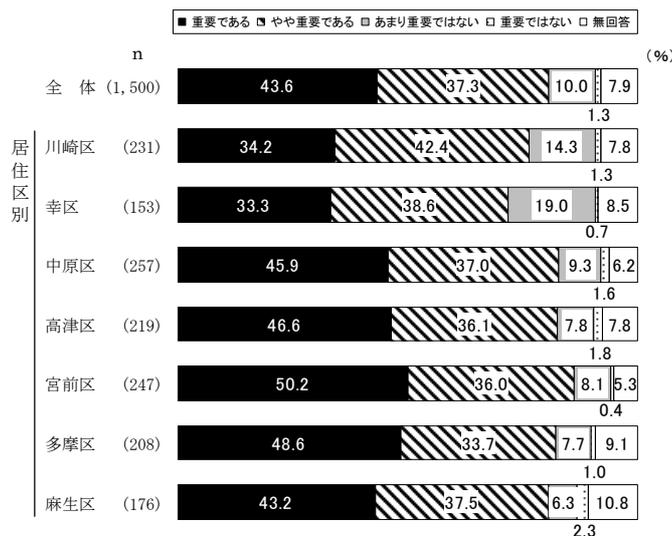
災害に強い交通網の整備を推進する



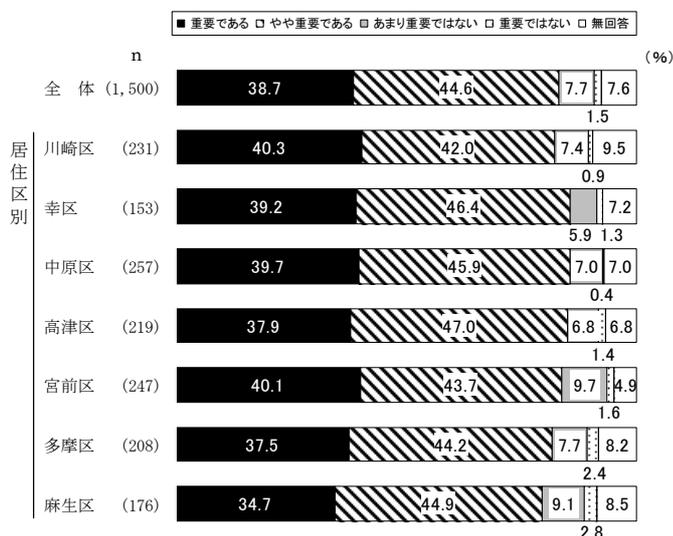
踏切の解消など鉄道を横断する安全対策を
推進する



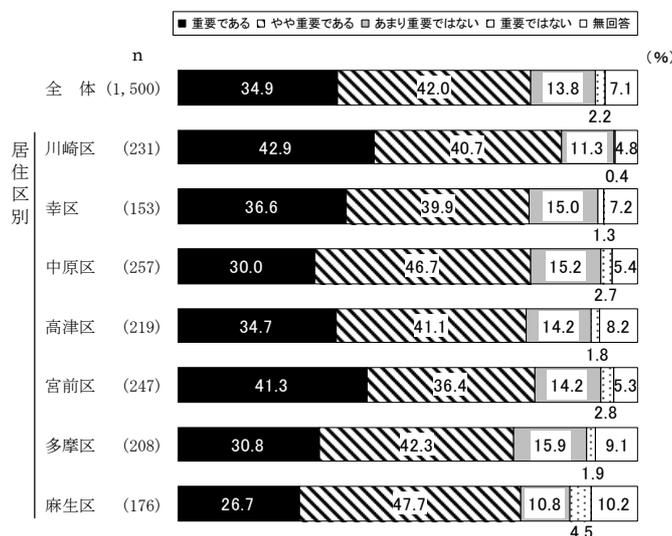
電車やバスの車内混雑の緩和を推進する



環境への負担が少ない交通体系を実現する

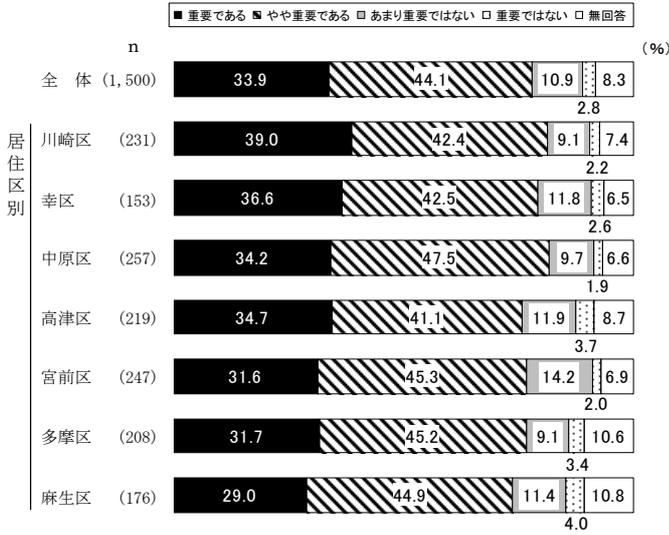


駅前広場や道路などにおいて、バスなどの
公共交通の利用を優先させる

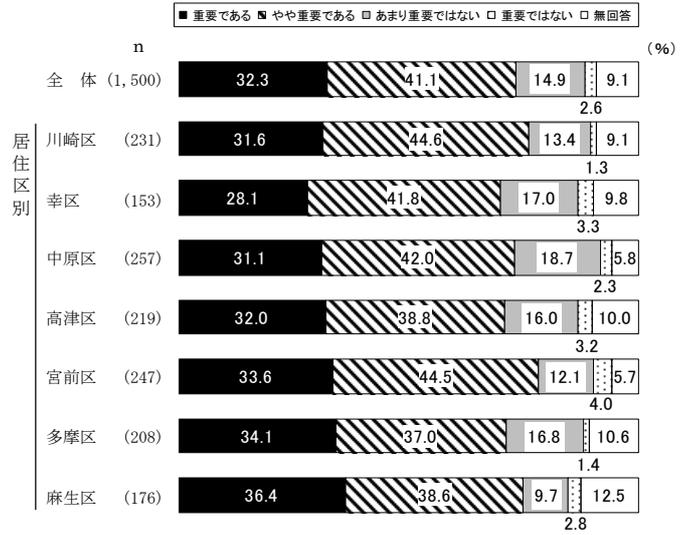


(第2回アンケート)

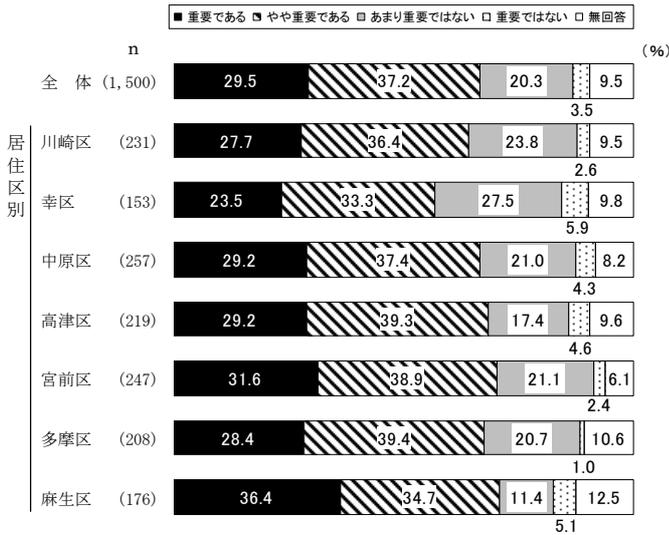
高齢者や外国人にも分かりやすい情報を提供する



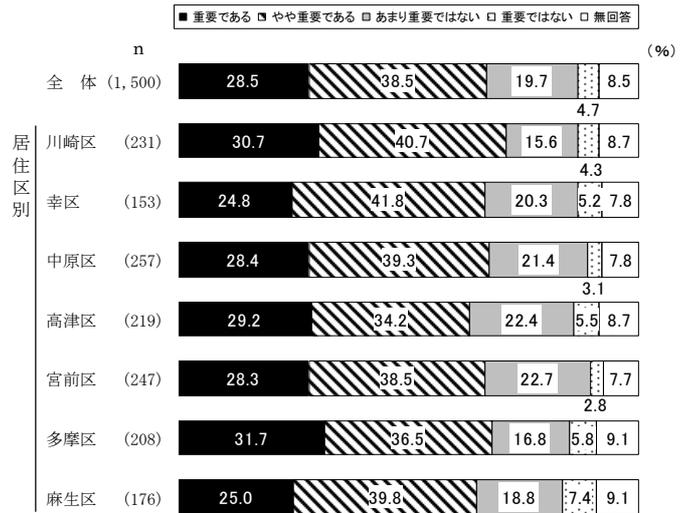
道路網の整備を推進する



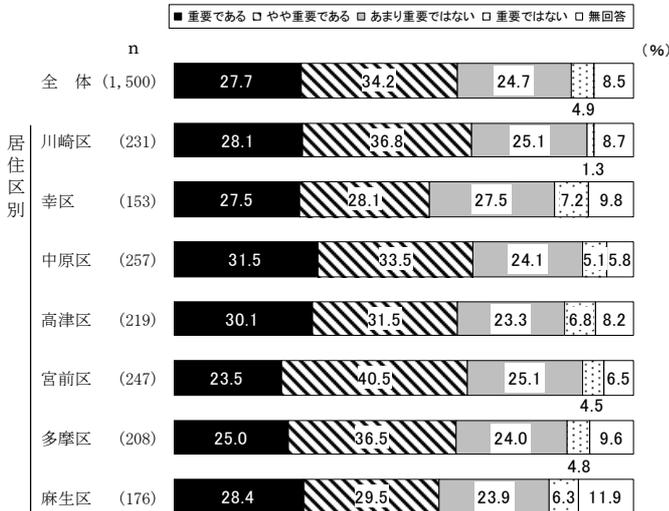
鉄道網の整備を推進する



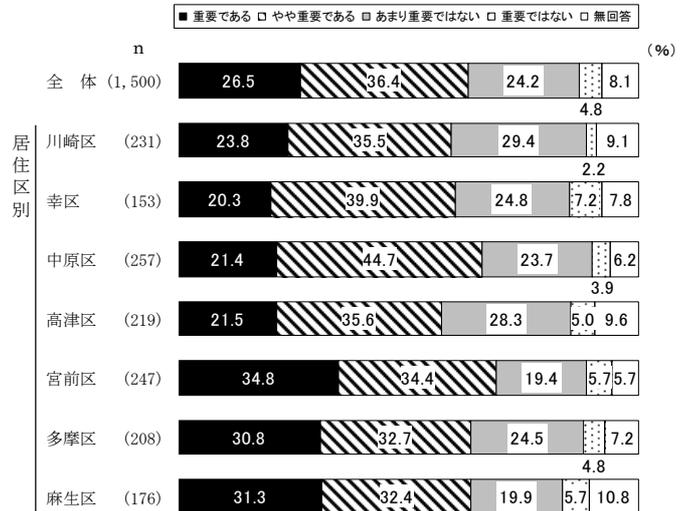
障害者や子育て世帯などが幅広く利用できるタクシーを普及する



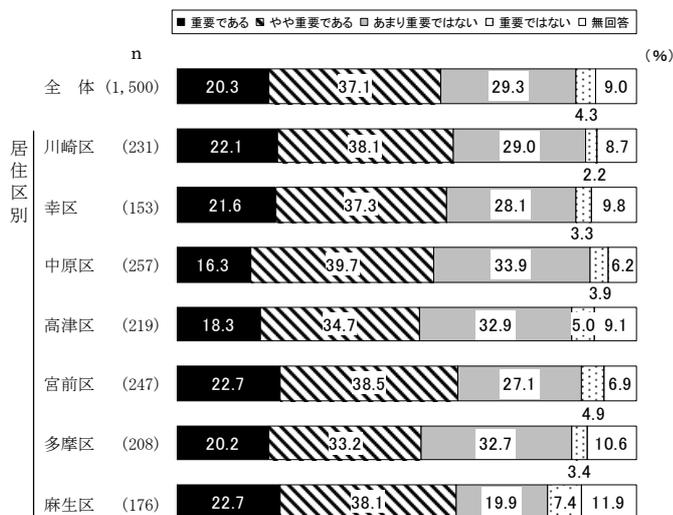
羽田空港や都心、市内の主要駅などへの所要時間を短縮する



コミュニティバス（ミニバス）の整備など地域特性に応じた、きめ細やかな交通網を整備する



既存の路線バスのサービスをより充実させる



居住区別では、＜重要である＞は、「歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などの安全対策を推進する」は中原区（94.5%）が最も多くなっている。「災害に強い交通網の整備を推進する」は、大きな傾向の違いはみられない。「踏切の解消など鉄道を横断する安全対策を推進する」は、多摩区（85.1%）が最も多く、宮前区（77.0%）が最も少なくなっている。「電車やバスの車内混雑の緩和を推進する」は、宮前区（86.2%）が最も多く、幸区（71.9%）が最も少なくなっている。（図表8-21）

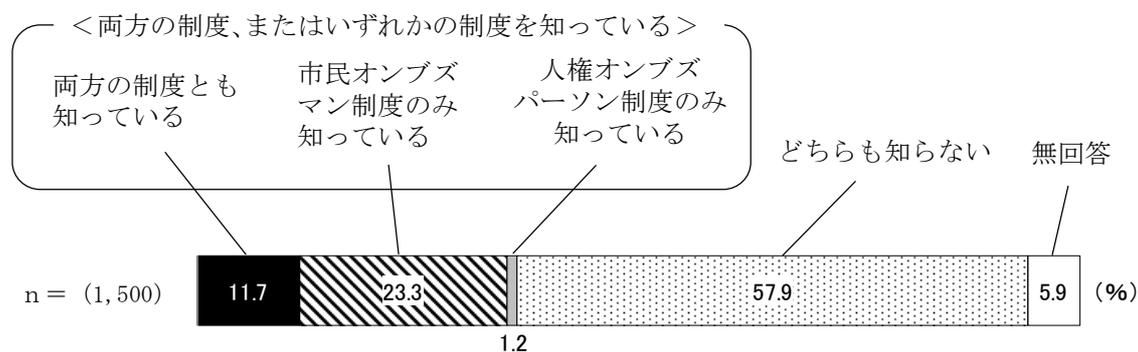
9 川崎市市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度について

9-1 市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度の認知状況

◎<両方の制度、またはいずれかの制度を知っている>が36.2%

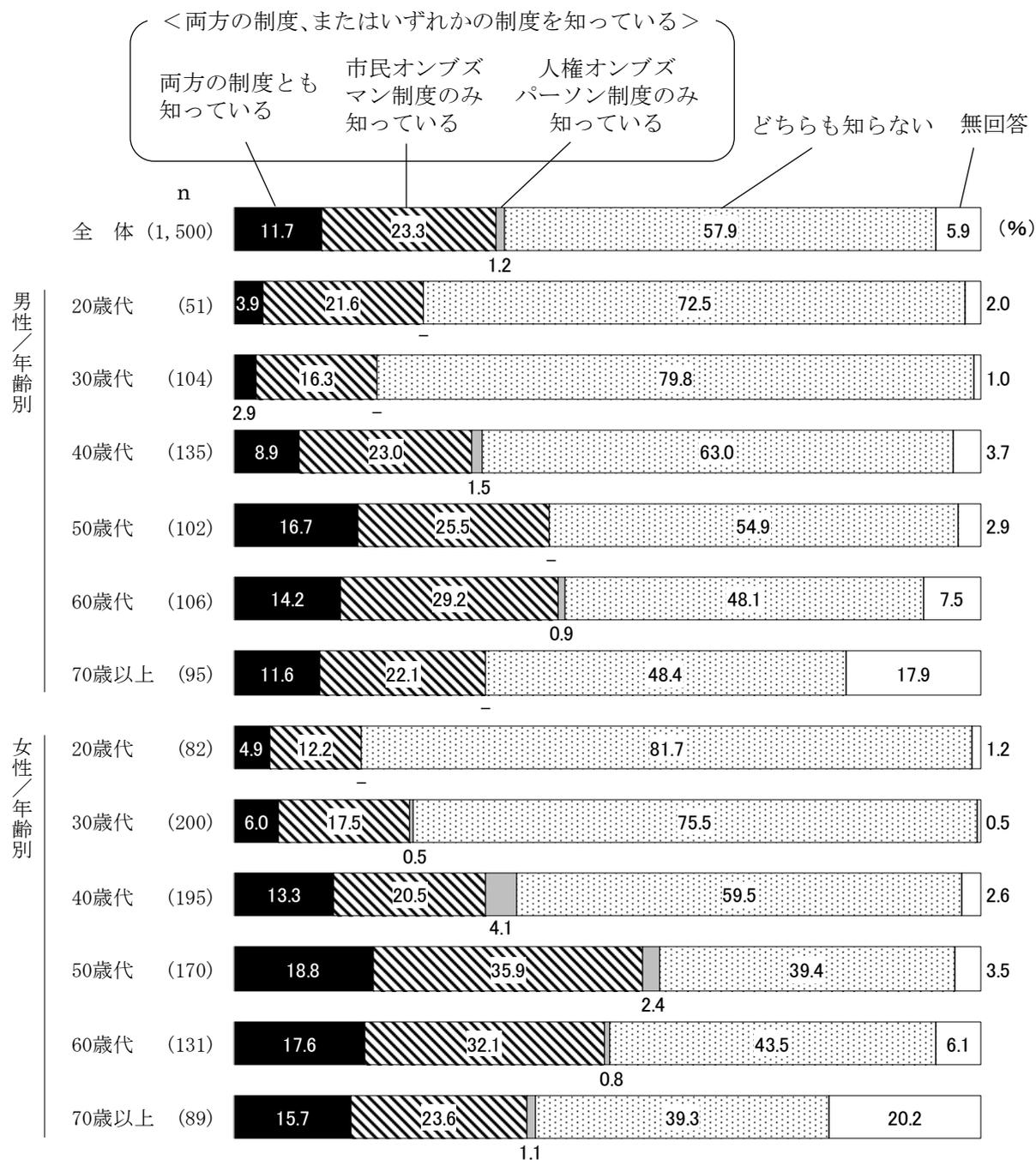
問 35 市民オンブズマン制度、人権オンブズパーソン制度について知っていますか。(○は1つだけ)

図表 9-1 市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度の認知状況



市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度の認知状況は、「両方の制度とも知っている」が11.7%、「市民オンブズマン制度のみ知っている」が23.3%、「人権オンブズパーソン制度のみ知っている」が1.2%となっている。なお、これらをあわせた<両方の制度、またはいずれかの制度を知っている>は、36.2%となっている。一方、「どちらも知らない」は57.9%となっている。(図表9-1)

図表9-2 市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度の認知状況(性/年齢別)



性/年齢別では、「両方の制度とも知っている」は、男女ともに50歳代(男性:16.7%、女性:18.8%)が最も多くなっている。「市民オンブズマン制度のみ知っている」は、男性では60歳代(29.2%)、女性では50歳代(35.9%)が最も多くなっている。一方、「どちらも知らない」は、男性では30歳代(79.8%)、女性では20歳代(81.7%)が最も多くなっている。(図表9-2)

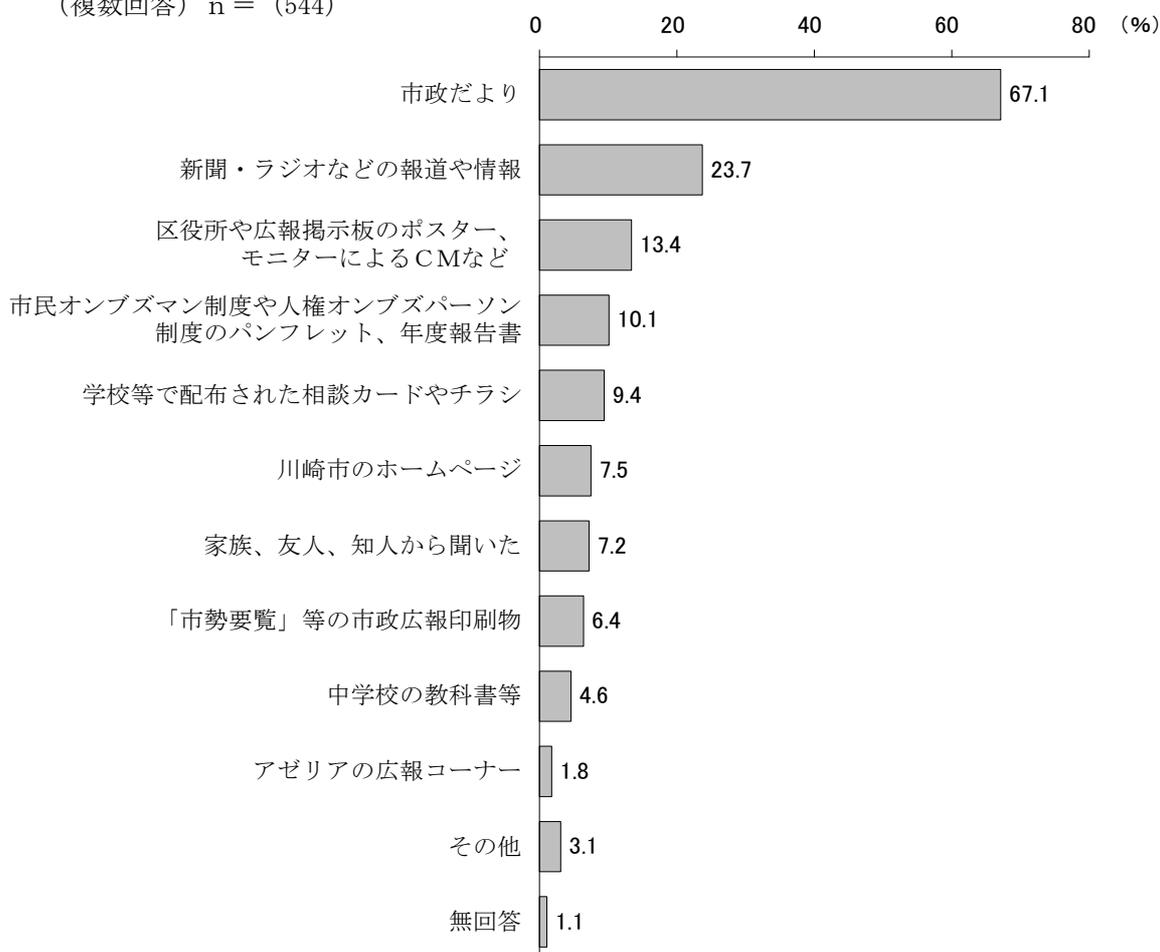
9-2 市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度の認知媒体

◎「市政だより」が67.1%

問 35-1 (問 35 で「1 両方の制度とも知っている」「2 市民オンブズマン制度のみ知っている」「3 人権オンブズパーソン制度のみ知っている」のいずれかに答えた方にうかがいます。) 制度を何によって知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表 9-3 市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度の認知媒体

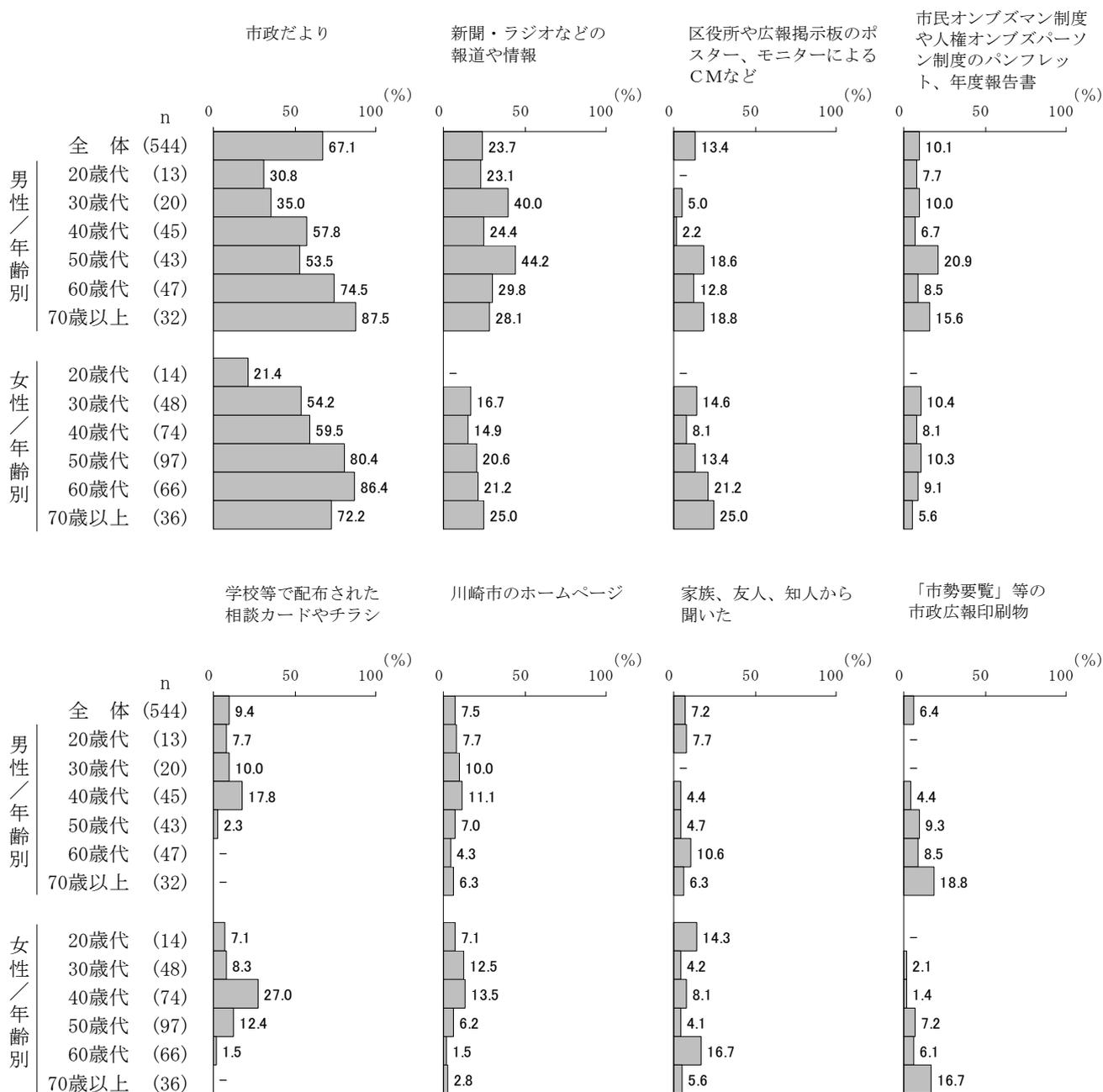
(複数回答) n = (544)



市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度の認知媒体は、「市政だより」(67.1%)が6割台後半と最も多くなっている。次いで、「新聞・ラジオなどの報道や情報」(23.7%)、「区役所や広報掲示板のポスター、モニターによるCMなど」(13.4%)、「市民オンブズマン制度や人権オンブズパーソン制度のパンフレット、年度報告書」(10.1%)の順となっている。(図表9-3)

図表9-4 市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度の認知媒体

(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「市政だより」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなっている。「新聞・ラジオなどの報道や情報」は、男性50歳代(44.2%)が4割台半ばと最も多くなっている。(図表9-4)

9-3 市政や市の職員に苦情を言いたくなったことがあるか

◎「ある」が41.7%、「ない」が50.6%

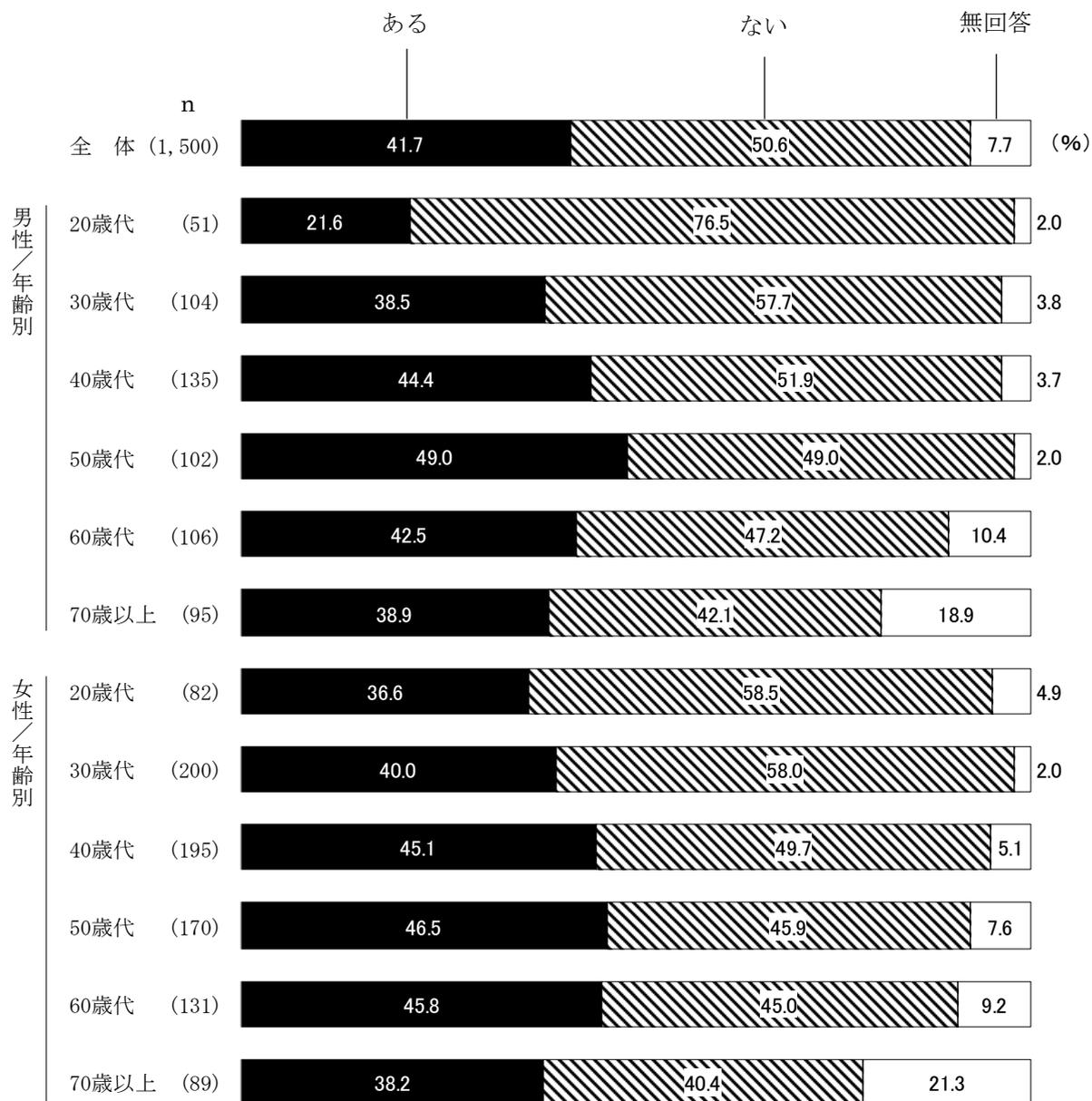
問 36 あなたは、今までに市政や市の職員に対して苦情を言いたくなったことはありますか。(○は1つだけ)

図表9-5 市政や市の職員に苦情を言いたくなったことがあるか



市政や市の職員に苦情を言いたくなったことがあるかについては、「ある」が41.7%、「ない」が50.6%となっている。(図表9-5)

図表9-6 市政や市の職員に苦情を言いたくなかったことがあるか(性/年齢別)



性/年齢別では、「ある」は、男性では50歳代(49.0%)が4割台後半、女性では40歳代から60歳代が4割台半ばと多くなっている。(図表9-6)

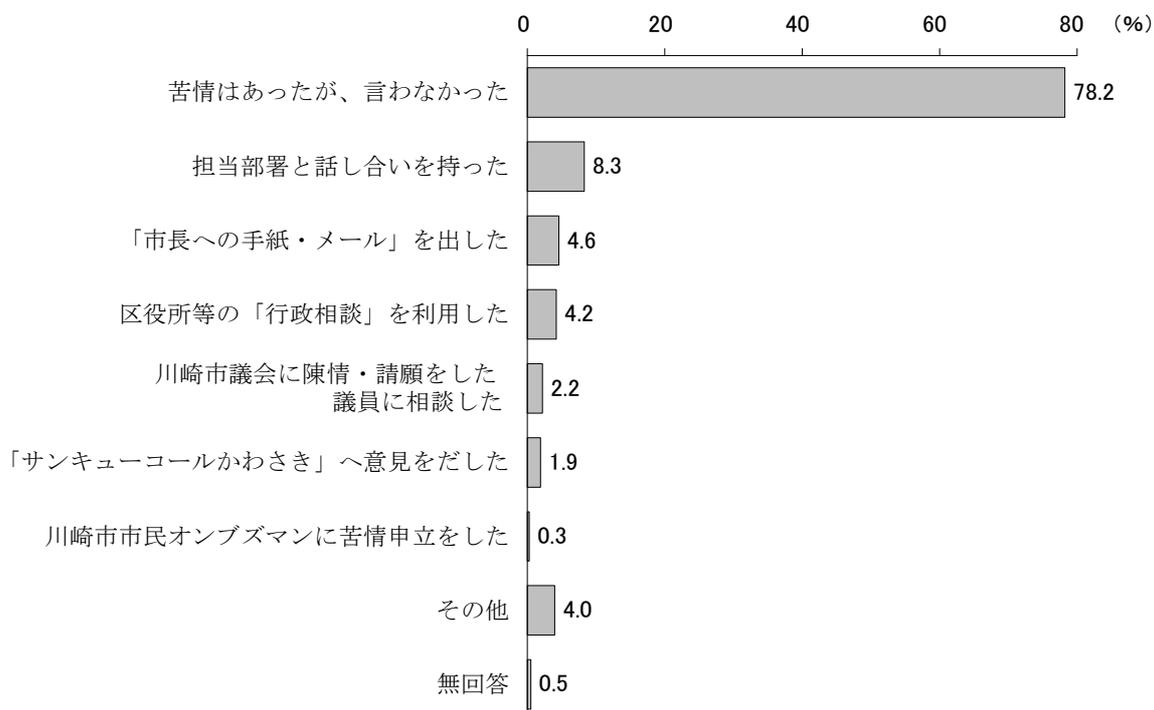
9-4 市政や市の職員に苦情を言いたくなったときの対応

◎「苦情はあったが、言わなかった」が78.2%

問36-1 苦情を言いたくなったとき、どのようにしましたか。(あてはまるものすべてに○)

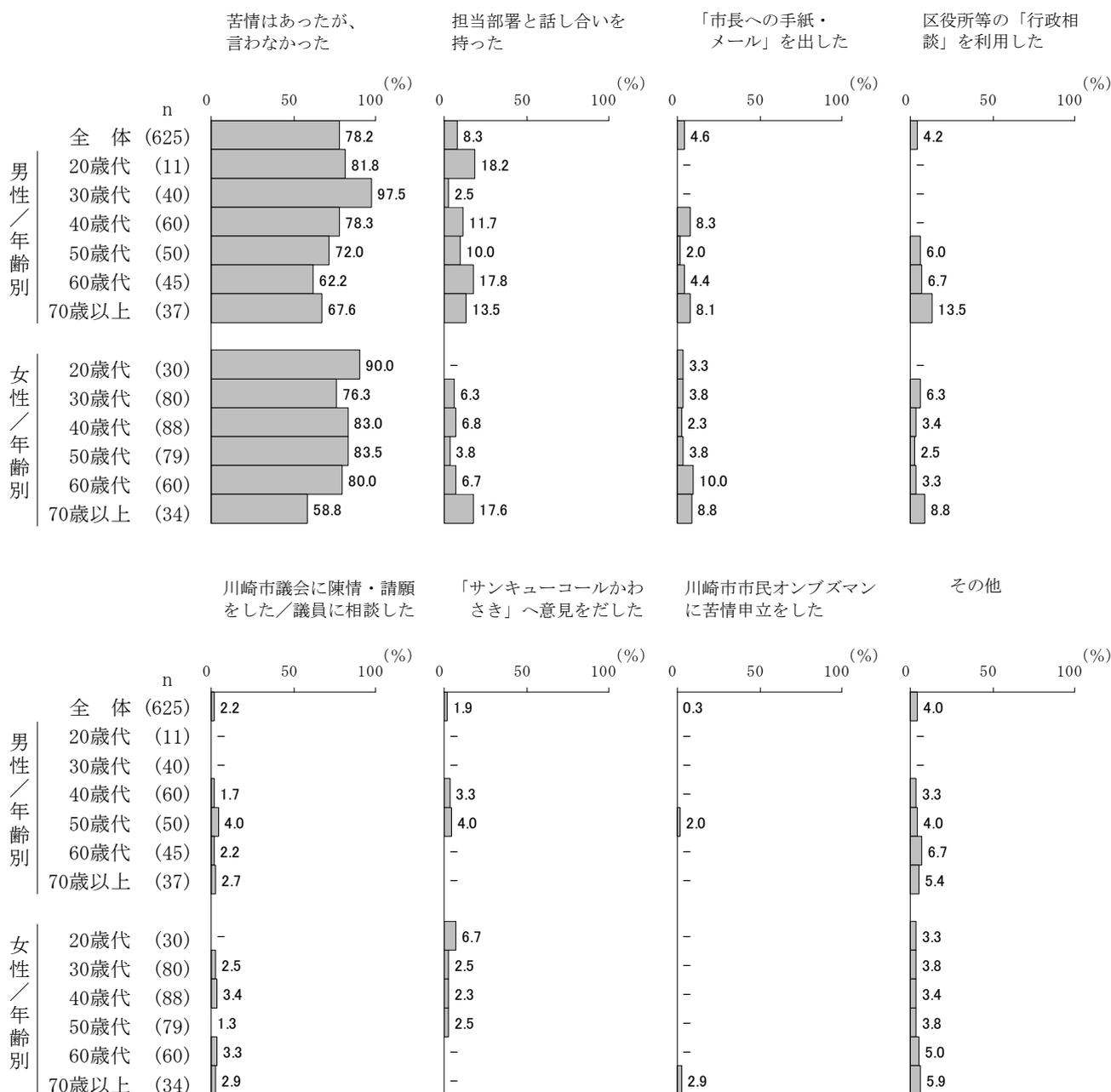
図表9-7 市政や市の職員に苦情を言いたくなったときの対応

(複数回答) n = (625) ※総数1,500のうち苦情を言いたくなったことがあると回答した人数



市政や市の職員に苦情を言いたくなったことがあると回答した人にそのときの対応を聞いたところ、「苦情はあったが、言わなかった」(78.2%)が7割台後半と最も多くなっている。次いで、「担当部署と話し合いを持った」(8.3%)、「市長への手紙・メール」を出した(4.6%)、「区役所等の「行政相談」を利用した」(4.2%)の順となっている。(図表9-7)

図表9-8 市政や市の職員に苦情を言いたくなったときの対応 (性/年齢別)



性/年齢別では、「苦情はあったが、言わなかった」は男性30歳代(97.5%)が最も多く、男性60歳代(62.2%)、男性70歳以上(67.6%)、女性70歳以上(58.8%)が少なくなっている。(図表9-8)

9-5 市民オンブズマンとしてふさわしいと思う人

◎「物事を公平で冷静に、かつ客観的に見る経験を積んでいる人(例えば元裁判官)」が47.3%

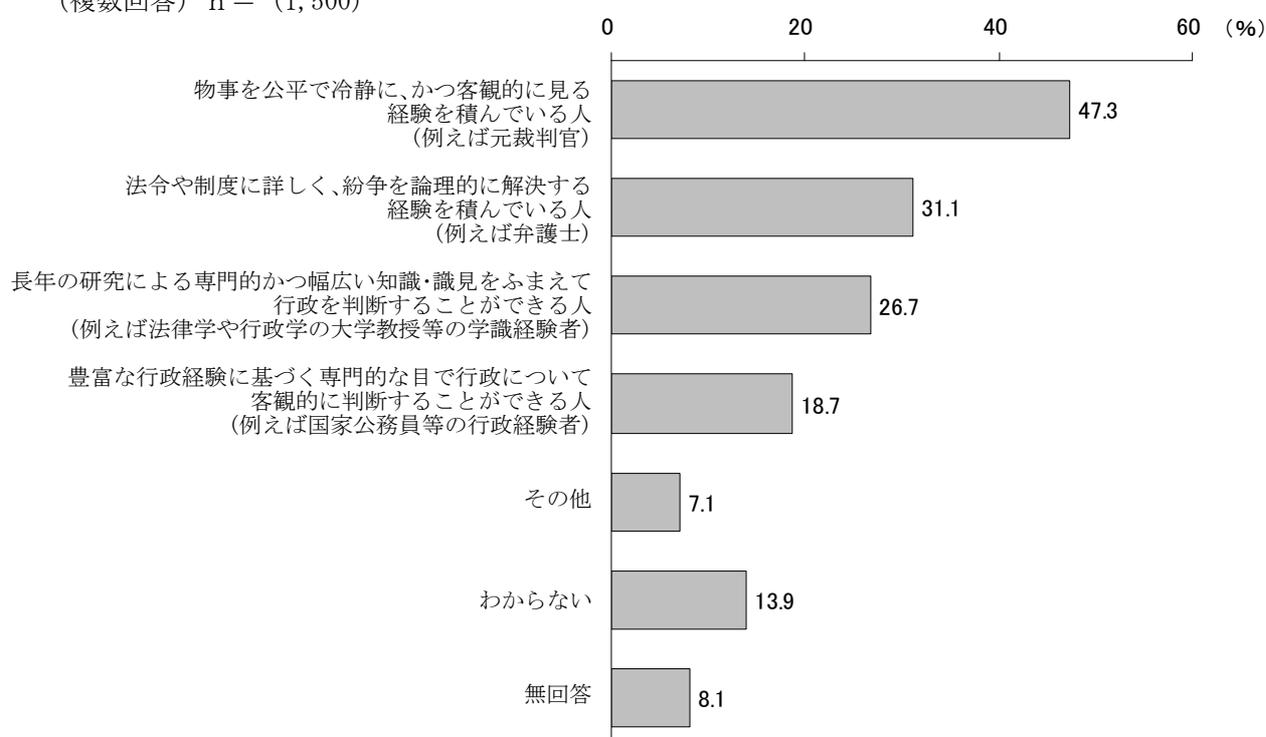
問37 あなたは、どういう経験や知識のある人が市民オンブズマンとしてふさわしいと思いますか。

(○は2つまで)

※市民オンブズマンは市政に関する苦情に公平・中立な立場から対応するだけでなく、場合によっては自ら市政を調査して、市に勧告することができるなど、強い権限を持っています。そのため市民オンブズマンには人格が高潔で高い識見を持つ人が求められており、現在では元裁判官と大学教授が就任しています。

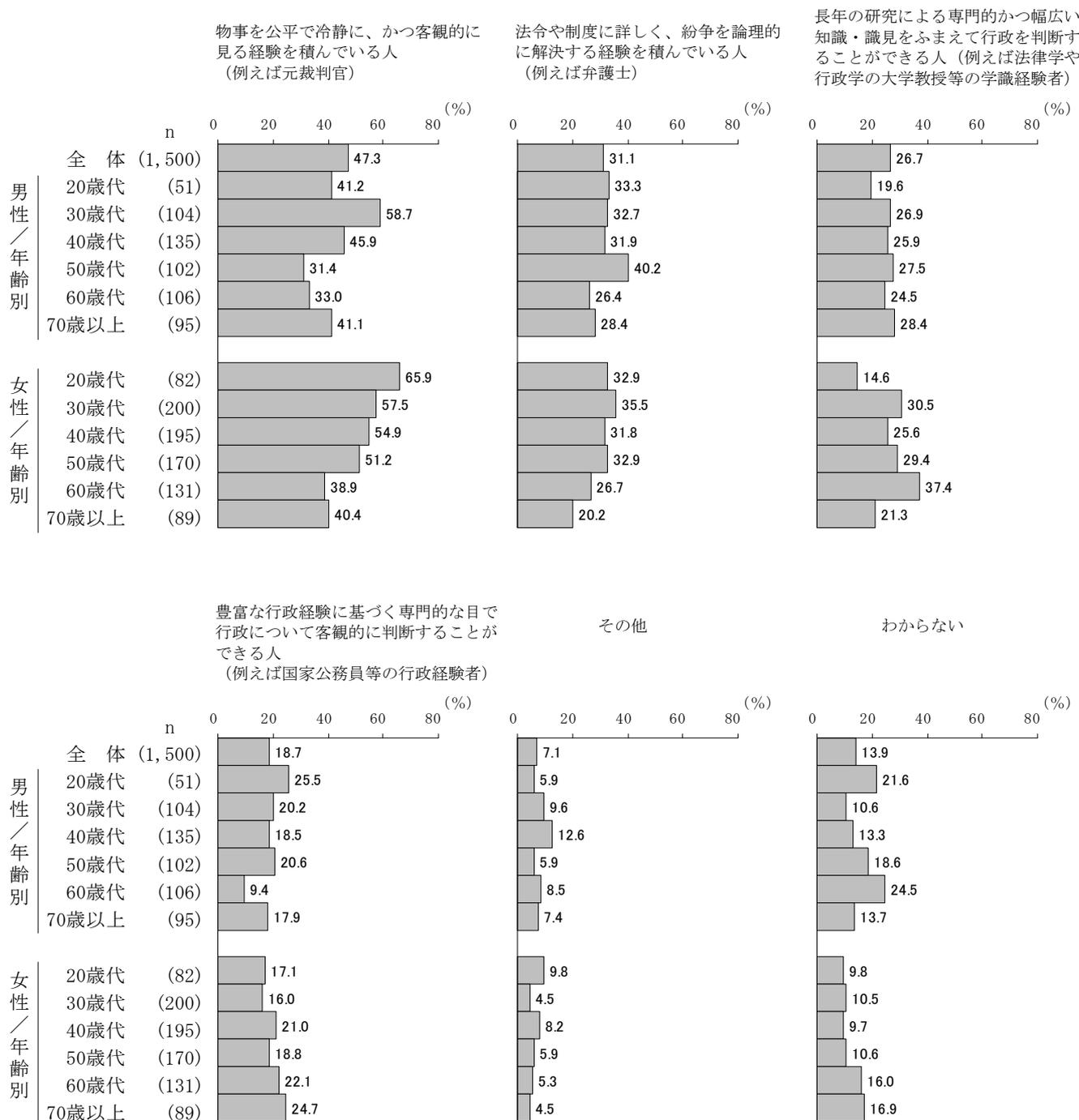
図表9-9 市民オンブズマンとしてふさわしいと思う人

(複数回答) n = (1,500)



市民オンブズマンとしてふさわしいと思う人は、「物事を公平で冷静に、かつ客観的に見る経験を積んでいる人(例えば元裁判官)」(47.3%)が最も多くなっている。次いで、「法令や制度に詳しく、紛争を論理的に解決する経験を積んでいる人(例えば弁護士)」(31.1%)、「長年の研究による専門的かつ幅広い知識・識見をふまえて行政を判断することができる人(例えば法律学や行政学の大学教授等の学識経験者)」(26.7%)、「豊富な行政経験に基づく専門的な目で行政について客観的に判断することができる人(例えば国家公務員等の行政経験者)」(18.7%)の順となっている。(図表9-9)

図表9-10 市民オンブズマンとしてふさわしいと思う人(性/年齢別)



性/年齢別では、「物事を公平で冷静に、かつ客観的に見る経験を積んでいる人(例えば元裁判官)」は、男性では30歳代(58.7%)が最も多くなっている。女性では、20歳代(65.9%)が最も多く、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなっている。「法令や制度に詳しく、紛争を論理的に解決する経験を積んでいる人(例えば弁護士)」は、男性50歳代(40.2%)が最も多くなっている。「長年の研究による専門的かつ幅広い知識・識見をふまえて行政を判断することができる人(例えば法律学や行政学の大学教授等の学識経験者)」は、女性60歳代(37.4%)が最も多くなっている。「豊富な行政経験に基づく専門的な目で行政について客観的に判断することができる人(例えば国家公務員等の行政経験者)」は、男性では20歳代(25.5%)、女性では70歳以上(24.7%)が最も多くなっている。(図表9-10)

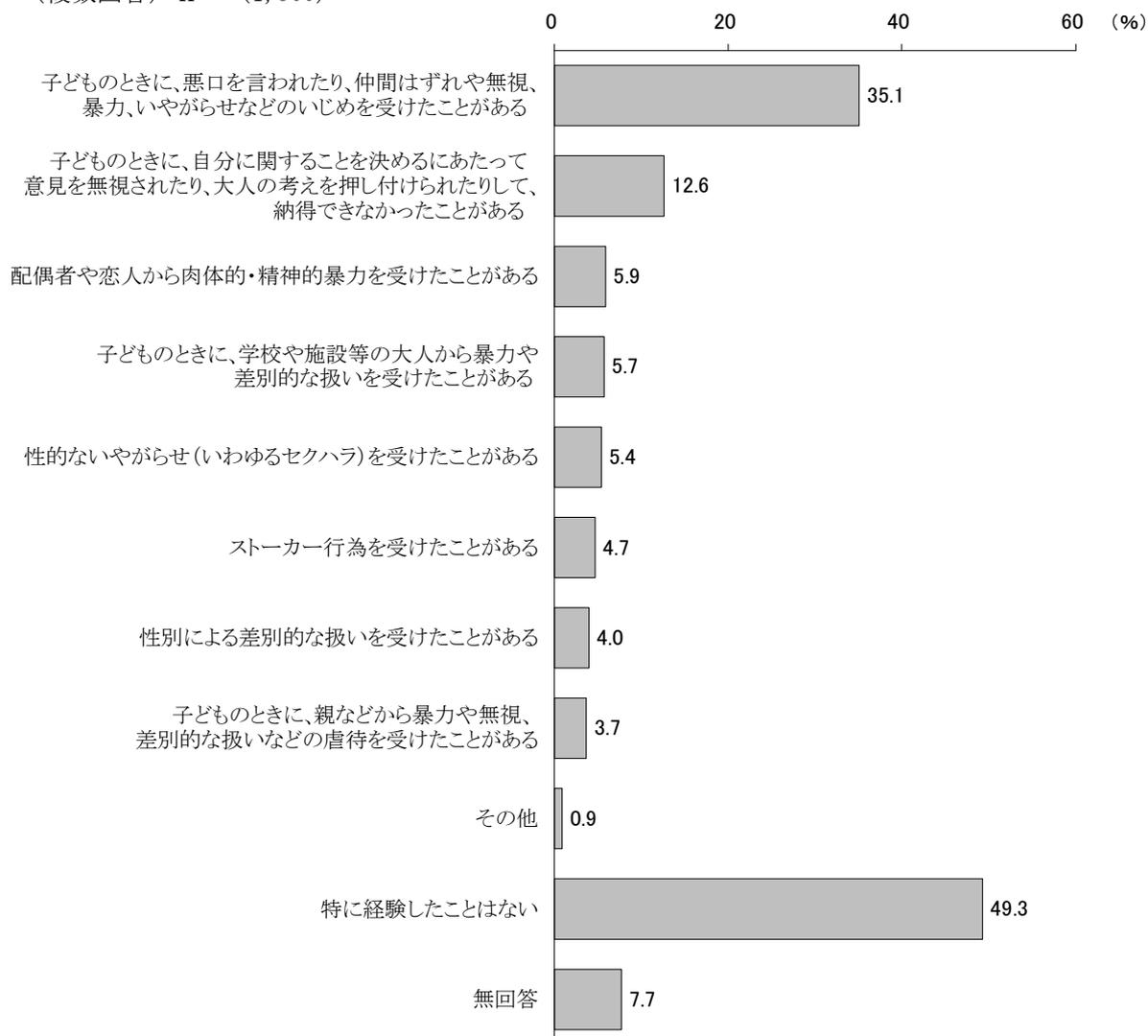
9-6 人権に関するトラブルに遭った経験

◎「子どものときに、悪口を言われたり、仲間はずれや無視、暴力、いやがらせなどのいじめを受けたことがある」が35.1%

問 38 今までに、あなた自身やご家族、友人の方が次のような経験をされたことがありますか。(あてはまるものすべてに○) * 下記選択肢中の「子ども」は、18歳未満の人をいいます。

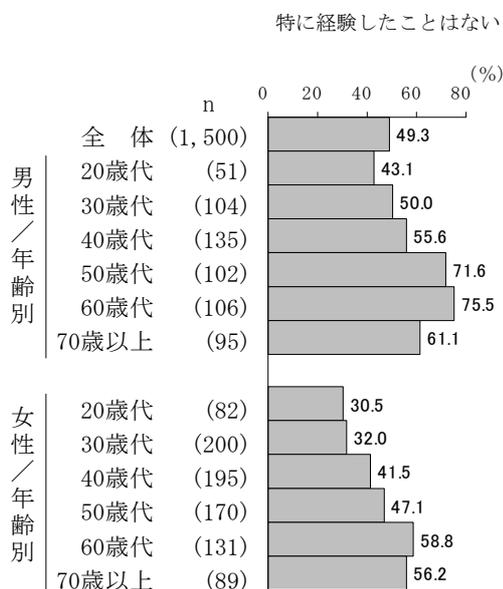
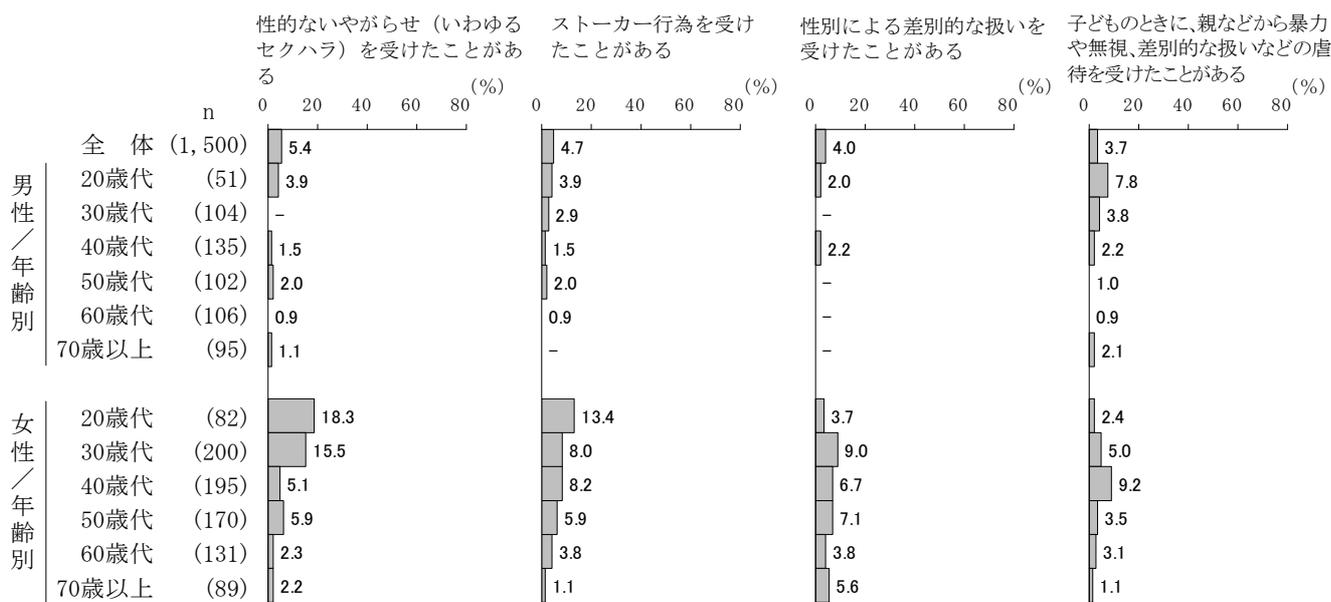
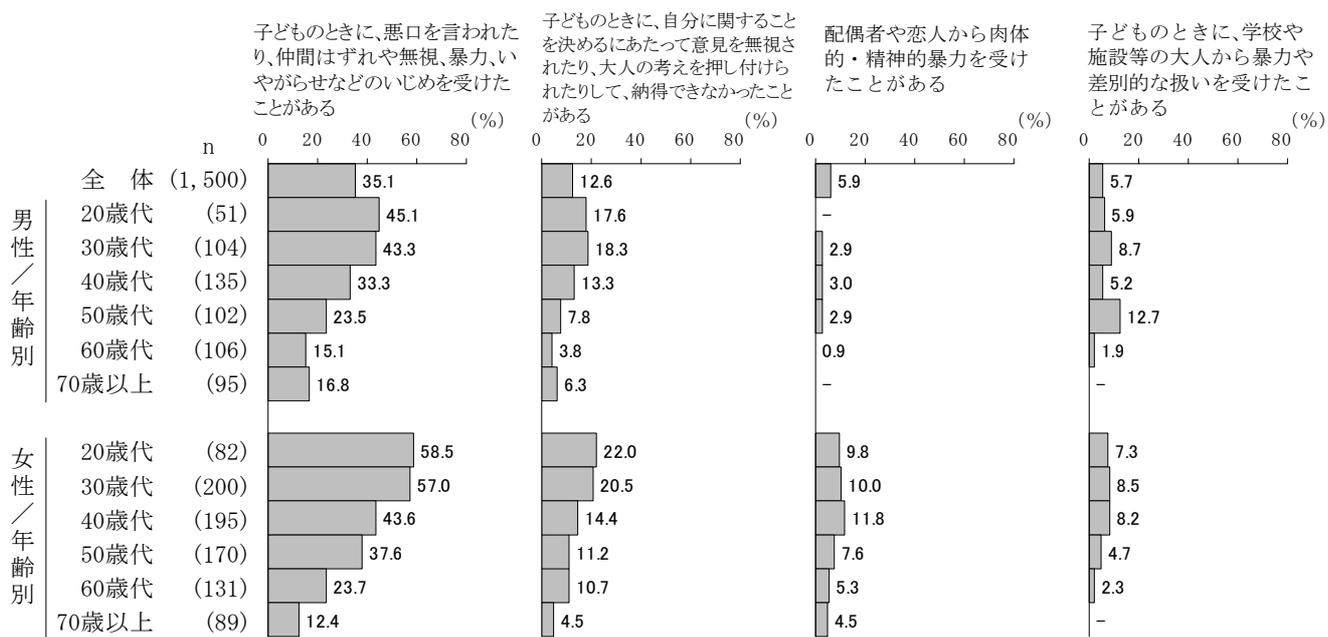
図表9-11 人権に関するトラブルに遭った経験

(複数回答) n = (1,500)



人権に関するトラブルに遭った経験は、「子どものときに、悪口を言われたり、仲間はずれや無視、暴力、いやがらせなどのいじめを受けたことがある」(35.1%)が最も多く、次いで「子どものときに、自分に関することを決めるにあたって意見を無視されたり、大人の考えを押し付けられたりして、納得できなかったことがある」(12.6%)となっている。一方、「特に経験したことはない」(49.3%)は約5割となっている。(図表9-11)

図表9-12 人権に関するトラブルに遭った経験(性/年齢別)



性/年齢別では、「子どものときに、悪口を言われたり、仲間はずれや無視、暴力、いやがらせなどのいじめを受けたことがある」及び「子どものときに、自分に関することを決めるにあたって意見を無視されたり、大人の考えを押し付けられたりして、納得できなかったことがある」は、おおむね年齢が高くなるにつれ少なくなっている。「子どものときに、学校や施設等の大人から暴力や差別的な扱いを受けたことがある」は男性 50 歳代 (12.7%) が最も多くなっている。「特に経験したことはない」は、おおむね年齢が高くなるにつれ多くなっている。(図表9-12)

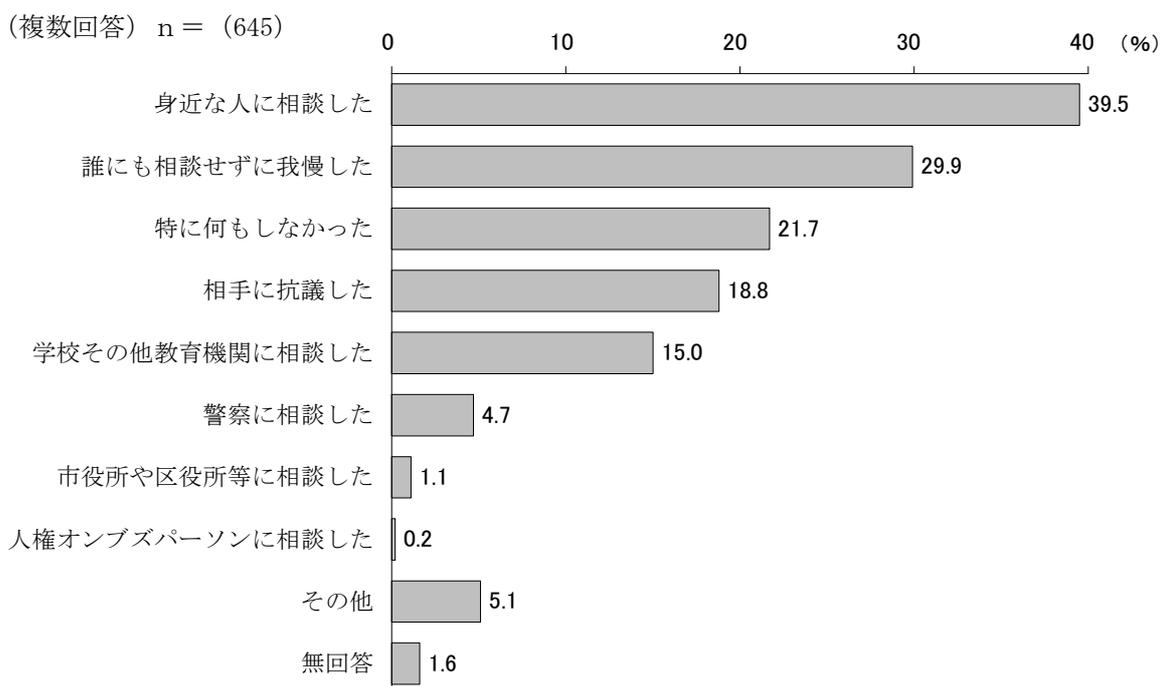
9-7 人権に関するトラブルに遭ったときの対応

◎「身近な人に相談した」が39.5%

問38-1 (問38で1~9に○をつけた方にうかがいます。)

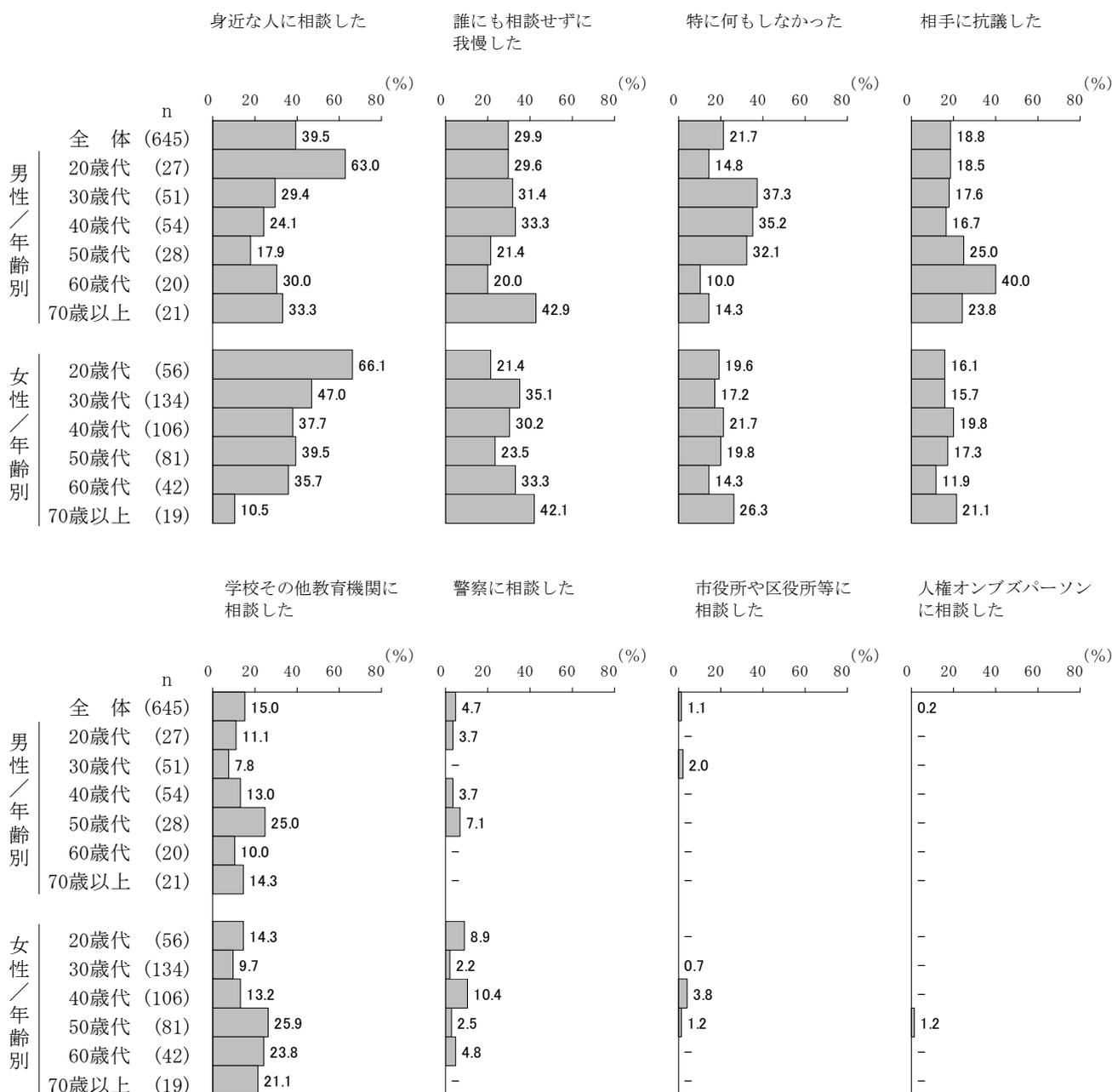
問38で選択した項目の経験をされたときに、あなた自身や家族、友人はどのような行動をとりましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表9-13 人権に関するトラブルに遭ったときの対応



人権に関するトラブルに遭ったときの対応は、「身近な人に相談した」(39.5%)が約4割と最も多くなっている。「誰にも相談せずに我慢した」(29.9%)は約3割、「特に何もしなかった」(21.7%)は約2割となっている。(図表9-13)

図表9-14 人権に関するトラブルに遭ったときの対応 (性/年齢別)



性/年齢別では、「身近な人に相談した」は、男女ともに20歳代(男性:63.0%、女性:66.1%)が最も多くなっている。「誰にも相談せずに我慢した」は、男女ともに70歳以上(男性:42.9%、女性:42.1%)が最も多くなっている。「特に何もなかった」は、男性の30歳代から50歳代が3割台と多くなっている。(図表9-14)

9-8 人権オンブズパーソンに備わっているとよいと思う資質

◎「物事を公平で客観的に見ることのできる冷静な観察力」が52.2%

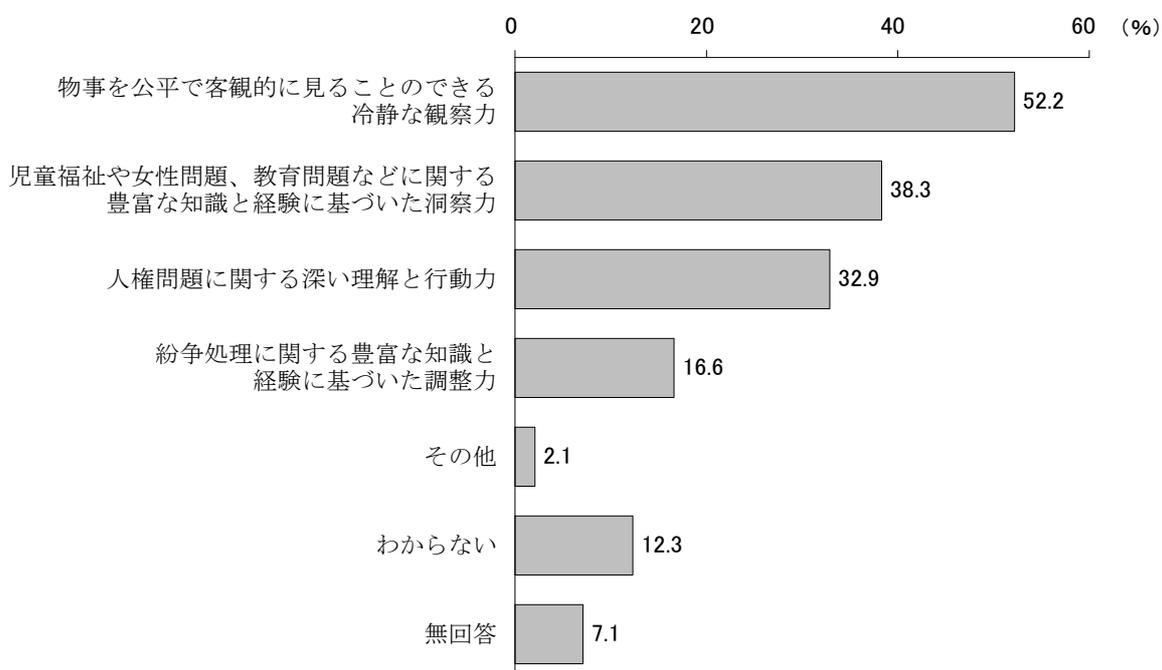
問 39 あなたは、人権オンブズパーソンには、どのような資質が備わっているとよいと思いますか。

(○は2つまで)

※人権オンブズパーソンは、救済申立てを受けると客観的・中立的立場で問題の原因や背景を明らかにし、意見の対立や感情の対立などを解きほぐす作業を粘り強く続けて、問題解決を図っていきます。
現在、人権オンブズパーソンは2名（弁護士と児童福祉を専門とする大学教授）います。

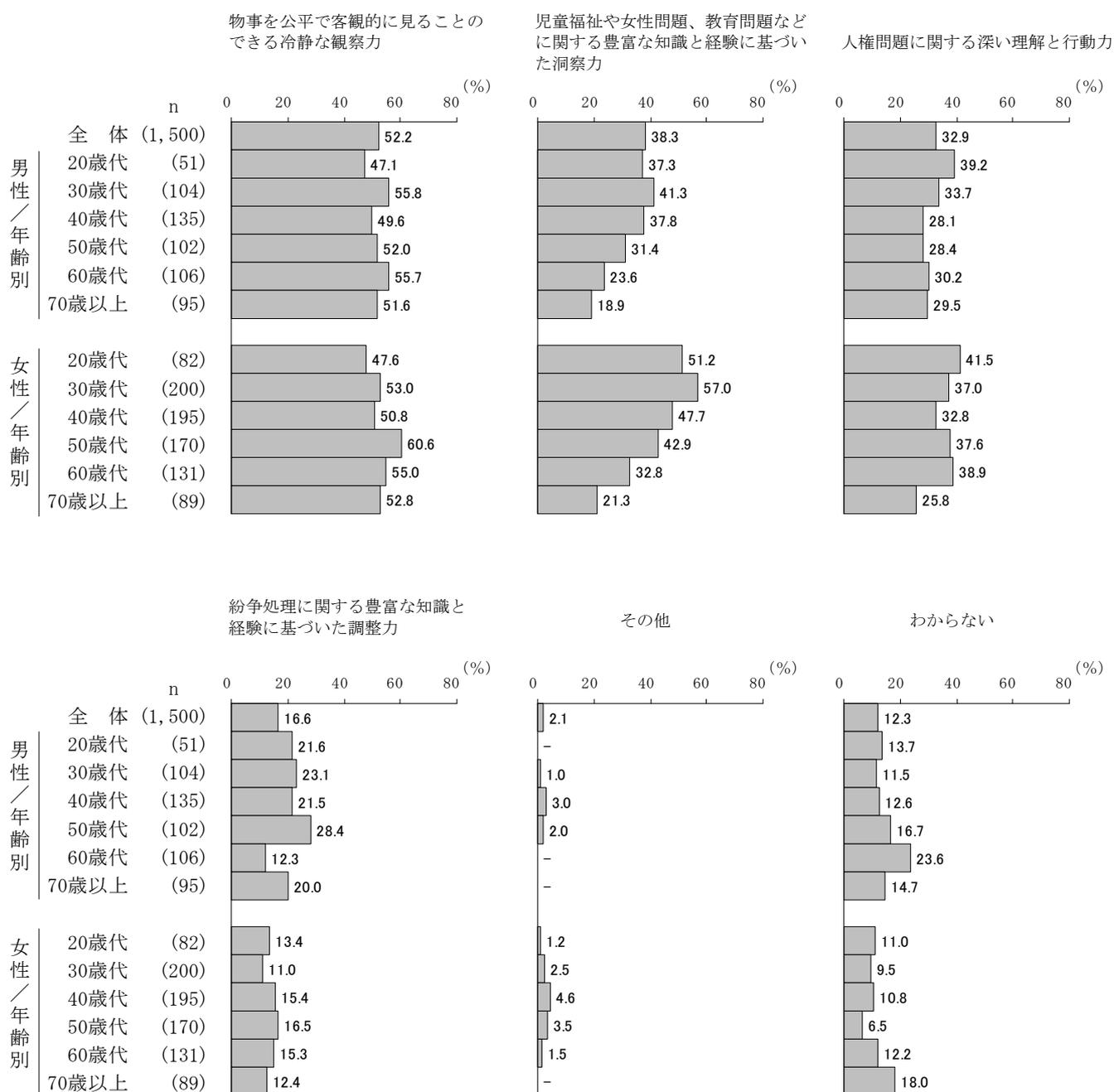
図表 9-15 人権オンブズパーソンに備わっているとよいと思う資質

(複数回答) n = (1,500)



人権オンブズパーソンに備わっているとよいと思う資質は、「物事を公平で客観的に見ることのできる冷静な観察力」(52.2%)が5割台と最も多くなっている。次いで、「児童福祉や女性問題、教育問題などに関する豊富な知識と経験に基づいた洞察力」(38.3%)、「人権問題に関する深い理解と行動力」(32.9%)、「紛争処理に関する豊富な知識と経験に基づいた調整力」(16.6%)の順となっている。(図表9-15)

図表9-16 人権オンブズパーソンに備わっているとよいと思う資質（性／年齢別）



性／年齢別では、「物事を公平で客観的に見ることのできる冷静な観察力」は、女性 50 歳代 (60.6%) が最も多くなっている。「児童福祉や女性問題、教育問題などに関する豊富な知識と経験に基づいた洞察力」は、男女ともに 30 歳代 (男性：41.3%、女性：57.0%) が最も多く、40 歳代以上は年齢が高くなるにつれ割合が少なくなっている。「人権問題に関する深い理解と行動力」は、男女ともに 20 歳代 (男性：39.2%、女性：41.5%) が最も多くなっている。「紛争処理に関する豊富な知識と経験に基づいた調整力」は、男性 50 歳代 (28.4%) が最も多くなっている。(図表 9-16)

(第2回アンケート)